概要版

# 香川県地震・津波被害想定

令和7年9月

香川県

# 1.1 基本的な考え方

**第4回検討委員会（令和7年7月1日開催）**

県内に大きな被害をもたらす南海トラフ地震等の震度分布や津波浸水想定などを

香川県地震・津波被害想定（第一次公表）として公表

**第5回検討委員会（令和7年9月2日開催）**

第一次公表の震度分布や津波浸水想定を基に、

地震発生直後の物的・人的被害を推計

↓

香川県地震・津波被害想定（第二次公表）として作成

# 1.2 第一次公表の概要（地震動の推計）

## ○南海トラフ（L2） 震度分布

（単位:ha）

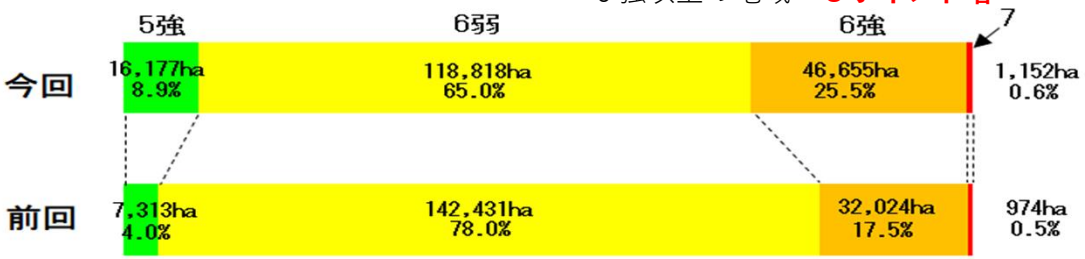
| 震度 | R7.7.1県公表 面積① | R7.7.1県公表 県土に占める割合② | H25.3.31県公表 面積③ | H25.3.31県公表 県土に占める割合④ | 増減 面積⑤（①－③） | 増減 県土に占める割合④（②－④） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 1,152 | 0.6% | 974 | 0.5% | 178 | 0.1% |
| 6強 | 46,655 | 25.5% | 32,024 | 17.5% | 14,631 | 8.0% |
| 6弱 | 118,818 | 65.0% | 142,431 | 77.9% | △ 23,613 | △12.9% |
| 5強 | 16,177 | 8.8% | 7,313 | 4.0% | 8,864 | 4.8% |
| 震度5弱以下 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

南海トラフ（L2）
建物被害が増え始める
**震度６強以上となる地域の県土に占める割合**
**8.1ポイント増**
**32,998ha ⇒ 47,807ha**

※端数処理の関係により、県土全体の面積と一致しない場合がある。

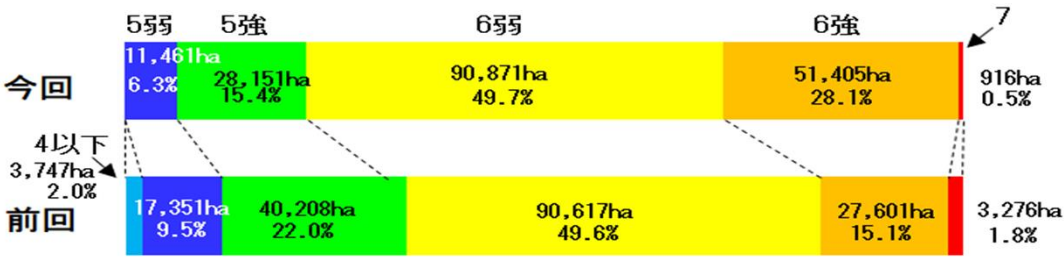
### ○南海トラフ（L2）

6強以上の地域 **8ポイント増**



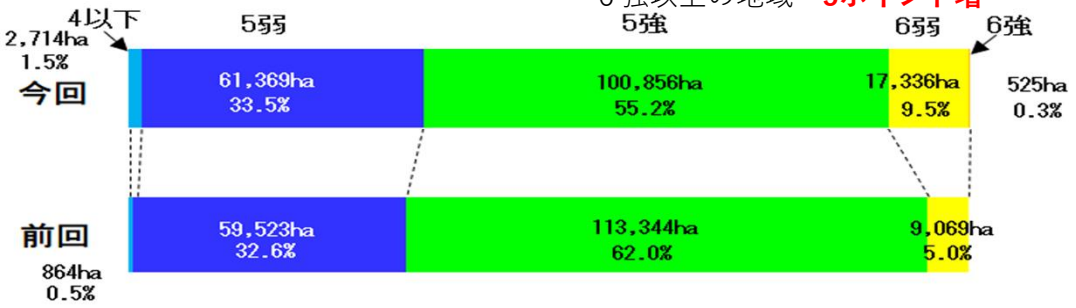

### ○中央構造線断層帯

6強以上の地域 **12ポイント増**



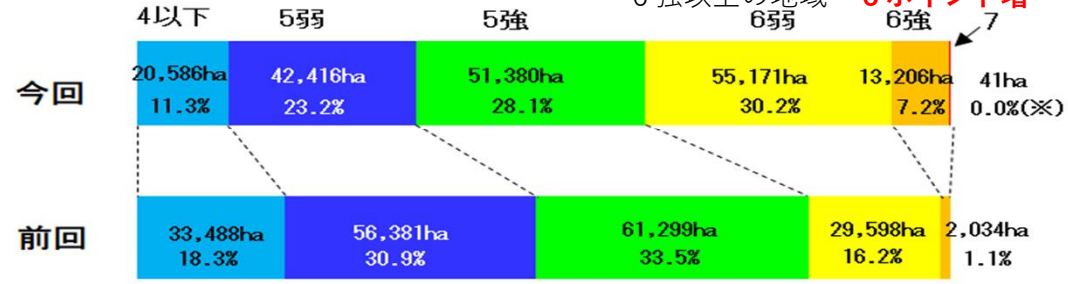

### ○南海トラフ（L1）

6強以上の地域 **5ポイント増**




### ○長尾断層帯

6強以上の地域 **6ポイント増**




(※)全体に占める面積割合が僅少（小数点第２位四捨五入）である。

# 1.3 第一次公表の概要（液状化危険度の推計）

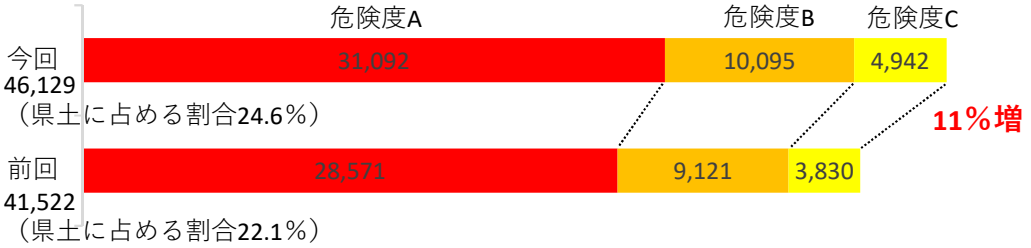
## ○南海トラフ（L2） 液状化危険度の推計

（単位:ha）

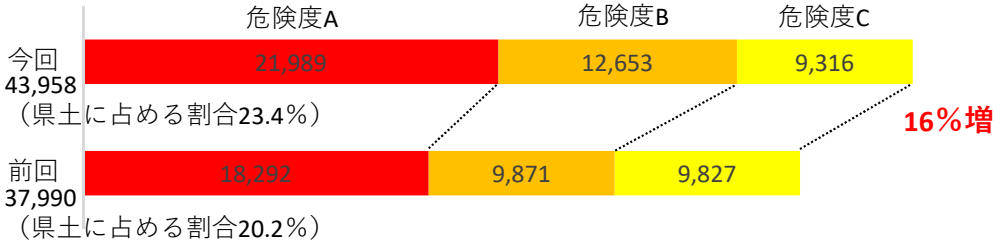
| 危険度 | R7.7.1県公表 面積① | R7.7.1県公表 県土に占める割合② | H25.3.31県公表 面積③ | H25.3.31県公表 県土に占める割合④ | 増減 面積⑤ (①－③) | 増減 増減率⑥ (①/③) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A（可能性大） | 31,092 | 16.6% | 28,571 | 15.2% | 2,521 | 8.8% |
| B（可能性中） | 10,095 | 5.4% | 9,121 | 4.9% | 974 | 10.7% |
| C（可能性小） | 4,942 | 2.6% | 3,830 | 2.0% | 1,112 | 29.0% |
| D（可能性なし） | 141,556 | 75.4% | 146,131 | 77.9% | △ 4,575 | △3.1% |

南海トラフ（L2）
液状化の発生可能性がある
危険度Ａ～Ｃの地域
**11%増**
**41,522ha ⇒ 46,129ha**

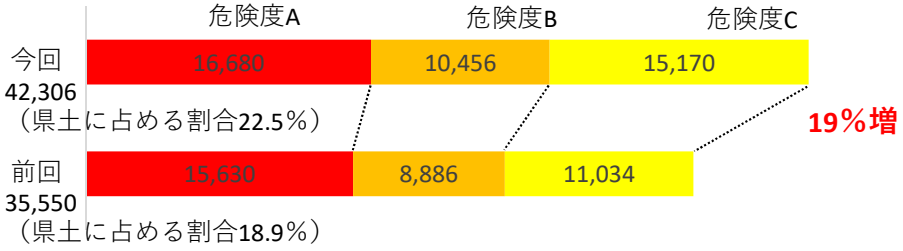
### ○南海トラフ(L2)



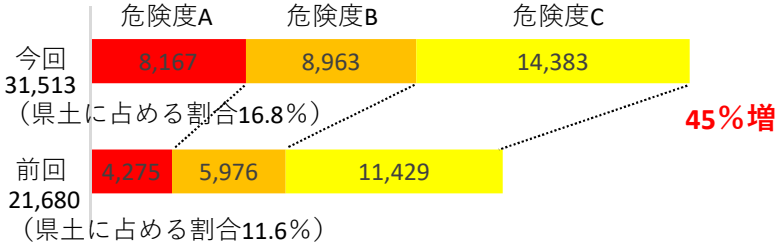

### ○中央構造線断層




### ○南海トラフ(L1)




### ○長尾断層帯



# 1.4 第一次公表の概要（津波の推計）

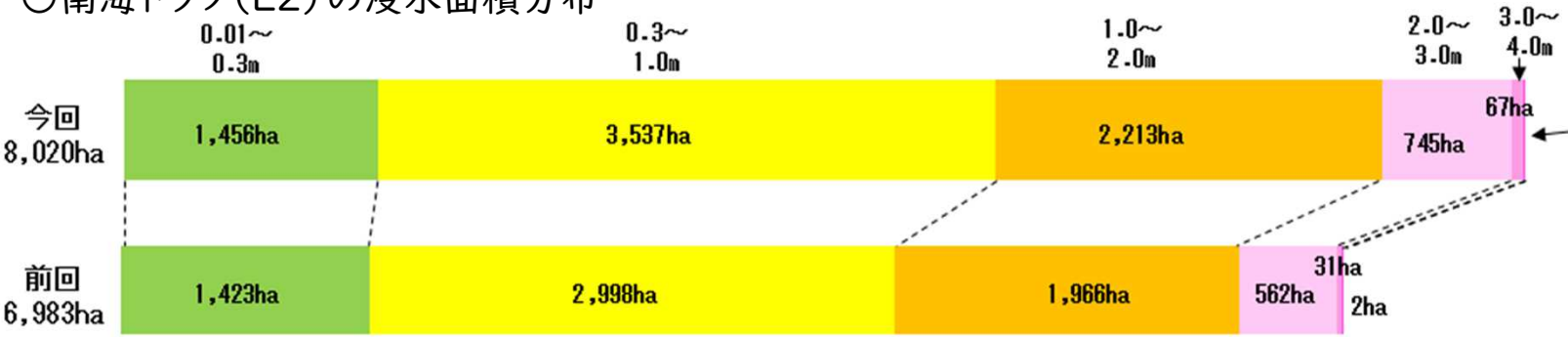
○津波の浸水面積

（単位:ha）

| | 南海トラフの最大クラスの津波（L2） | | | 南海トラフの発生頻度の高い津波（L1） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | R7.7.1県公表 | H25.3.31県公表 | 増減率 | R7.7.1県公表 | H25.3.31県公表 | 増減率 |
| 香　　川　　県 | 8,020 | 6,983 | 14.8% | 1,032 | 1,091 | △5.4% |

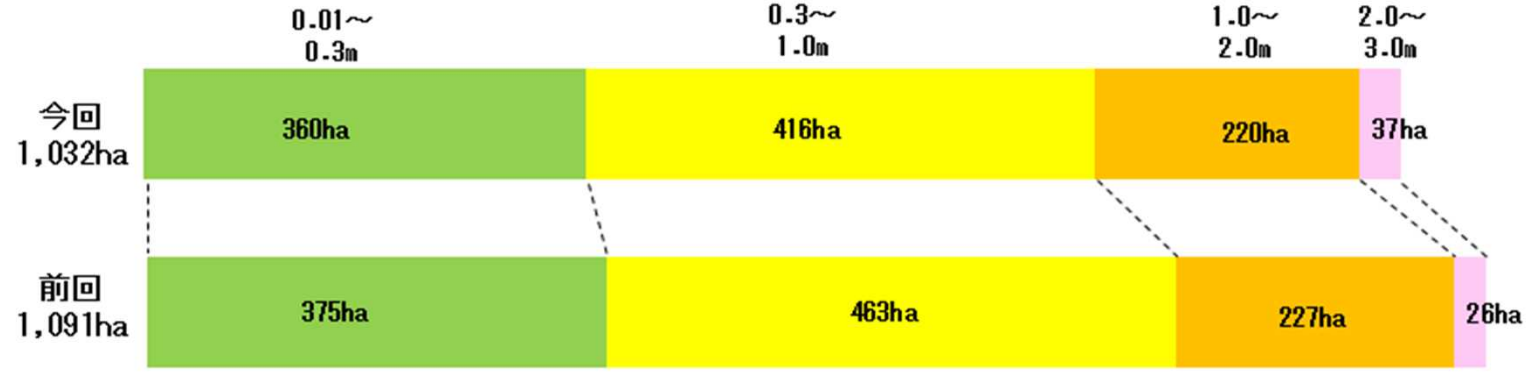
※浸水面積は、浸水の深さが1cm以上となった地域の面積

○南海トラフ（L2）の浸水面積分布




南海トラフ（L2）
津波浸水面積　15%増
6,983ha ⇒ 8,020ha
このうち、
３０cm以上の津波浸水面積　18%増
5,559ha ⇒ 6,564ha
２m以上の津波浸水面積
595ha ⇒ 814ha
37%増

○南海トラフ（L1）の浸水面積分布




南海トラフ（L1）
津波浸水面積　５%減
1,091ha ⇒ 1,032ha
このうち、
３０cm以上の津波浸水面積　６%減
716ha ⇒ 672ha
２m以上の津波浸水面積　42%増
26ha ⇒ 37ha

# 2.1 被害想定の項目

○主な物的・人的被害等の推計項目

| 分類 | 主な推計項目 |
|---|---|
| 物的被害等 | ○建物被害<br>内訳（揺れによる被害／液状化による被害／津波による被害／急傾斜地崩壊による被害／地震火災による被害）<br>○ライフライン被害<br>・上水道、下水道の被害<br>・電力の被害<br>・通信の被害　など |
| 人的被害 | ○死者数、負傷者数<br>内訳（建物倒壊による被害／津波による被害／急傾斜地崩壊による被害／火災による被害／ブロック塀等による被害／災害関連死者数） |
| 生活への影響 | ○避難者数　など |

**推計項目のポイント**

- 県の前回推計（平成26年３月31日公表）及び国の被害想定（令和７年３月31日公表）を踏まえ、被害想定項目を定めた。
- 物的被害の項目については、前回推計と同様に、地震の揺れや津波による建物の被害、ライフライン（上下水道等）の被害等を推計した。
- 人的被害の項目については、前回推計と同様に、建物倒壊による被害、津波による被害、地震火災による被害等を推計した。
- 地震が発生する季節・時間帯については、冬・朝５時、夏・昼１２時、冬・夕１８時のうち、多くの県民が自宅で就寝中に被災することになり、家屋倒壊や津波避難の遅れにより最も被害が大きくなる冬・朝５時を採用するケースが主となった。また、地震発生時の風速については、平均風速４m/秒と強風（８m/秒）で推計し、被害が大きくなる８m/秒が採用となった。

**前回との比較**

- 人的被害について、令和６年能登半島地震においても災害関連死が課題となり、国の被害想定において初めて「災害関連死者数」が加えられたことから、今回新たに「災害関連死者数」を推計に加えた。

・前回調査と同様に、県民の生活行動により想定される被害が異なる3種類の特徴的なシーン（季節・時間帯）を設定する（冬・朝5時、夏・昼12時、冬・夕18時）。

# 2.2 被害想定の推計手法

## ○主な物的･人的被害等の推計手法

| 分類 | | 主な推計の内容 | 推計の手法 |
|---|---|---|---|
| 物的被害 | 建物被害（全壊） | ・揺れによる被害 | 建物を構造・年代別に区分し、それぞれの建物棟数に、年代に応じた全壊率（揺れ）を乗じて算定する。 |
| | | ・液状化による被害 | 建物を構造・年代別に区分し、それぞれの建物棟数に、年代に応じた全壊率（液状化）及び液状化危険度に応じた面積率を乗じて算定する。 |
| | | ・津波による被害 | 建物を構造別に区分し、それぞれの建物棟数に津波による全壊率（津波）を乗じて算定する。 |
| | | ・急傾斜地崩壊による被害 | 急傾斜地崩壊危険区域内の建物に対し、危険度ランク別の急傾斜地の崩壊確率、全壊率（急傾斜地崩壊）を乗じて算定する。 |
| | | ・地震火災による被害 | 建物の構造、隣り合う建物同士の距離などの市街地形状や風向など考慮した延焼シミュレーションにより算定する。 |
| | ライフライン被害 | ・上水道の被害 | 津波による浸水、地震の揺れや液状化による管路被害、停電等の施設被害から断水人口を算定する。 |
| | | ・下水道の被害 | 津波による浸水、地震の揺れや液状化による管路被害、停電等の施設被害から支障人口を算定する。 |
| | | ・電力の被害 | 津波による浸水、地震の揺れ、建物倒壊、火災による電柱等の被害、供給施設の被害による停電軒数を算定する。 |
| | | ・通信の被害 | 固定電話：津波による浸水、地震の揺れ、建物倒壊、火災による電柱等の被害、停電、火災の焼失棟数から不通回線数を算定する。<br>携帯電話：停電による基地局停止等の状況から算定する。 |
| 人的被害（死者数・負傷者数） | | ・建物倒壊による被害 | 損壊棟数に発生時間帯別の屋内滞留率と死者率を乗じて算定する。 |
| | | ・津波による被害 | 死者数：避難先の津波到達時間と避難にかかる時間を比較して、避難可否を判定し、死者率を乗じて算定する。<br>負傷者数：被災人数から死者数を除して算定する。 |
| | | ・急傾斜地崩壊による被害 | 急傾斜地崩壊による全壊棟数に対し、発生時間帯別の木造建物内滞留者人口比率等を乗じて算定する。 |
| | | ・地震火災による被害 | 出火建物における逃げ遅れ、建物倒壊による救出困難者の火災巻き込まれ、延焼からの逃げまどい被害を算定する。このうち主な要因である出火建物における逃げ遅れの死傷者数は、出火件数に屋内滞留人口比率を乗じるなどして算出する。 |
| | | ・ブロック塀等による被害 | ブロック塀、自動販売機、屋外落下物の発生件数に対し、発生時間帯別の人口密度を考慮し死傷者率を乗じて算定する。 |
| | | ・災害関連死者数 | 過去の地震で発生した災害関連死者数と最大避難者数の関係を用いて、避難者数から災害関連死者数を算定する。 |
| 生活への影響 | | ・避難所避難者数 | 当日・１日後の津波浸水区域内の避難者数は、津波警報等に伴う避難指示が出る区域内の全員を対象とし、津波浸水区域外の避難者数は、建物の損壊棟数に１棟当たりの人員を乗じるなどして算定する。<br>日数経過後の避難者数は、停電や断水の状況等を考慮して算定する。 |

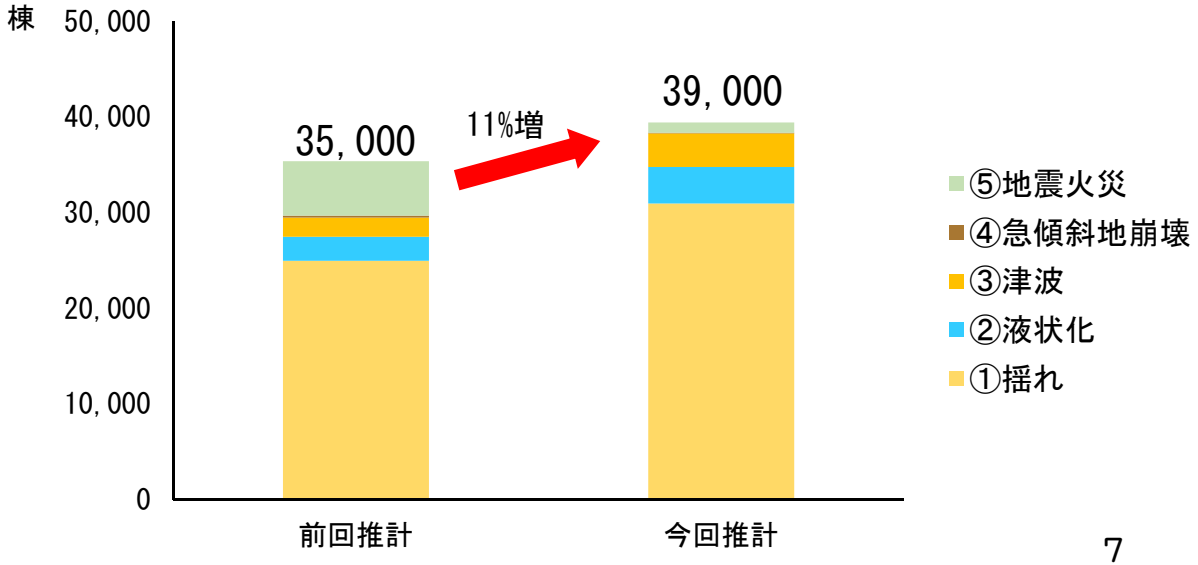
# 3.1 建物被害（南海トラフの最大クラスの地震（L2））

## ○ 建物被害（全壊棟数）

（単位：棟）

| 項目 | 前回推計 （H25） a | 今回推計 （R7） b | 増減 （b-a） （H25→R7増減率） |
|---|---|---|---|
| ①揺れ | 25,000 | 31,000 | 6,000 （ 24% 増） |
| ②液状化 | 2,500 | 3,800 | 1,300 （ 52% 増） |
| ③津波 | 2,000 | 3,500 | 1,500 （ 75% 増） |
| ④急傾斜地崩壊 | 220 | 70 | ▲ 150 （ 68% 減） |
| ⑤地震火災 | 5,700 | 1,100 | ▲ 4,600 （ 81% 減） |
| 計 | 35,000 | 39,000 | 4,000 （ 11% 増） |

※想定シーン：冬・朝5時、地震火災のみ冬18時




**前回との差異の要因**

- 前回推計と比較して、建物の立地状況をより考慮して推計した地震火災による焼失棟数は減少したが、建物被害が増加する震度６強以上の地域や、液状化の発生可能性がある地域が拡大したこと、高松市やさぬき市の建物の立地が多い地域を中心に建物被害が増加する2.0m以上の浸水域が拡大したことなどから、建物被害（全壊棟数）の計は、増加した。

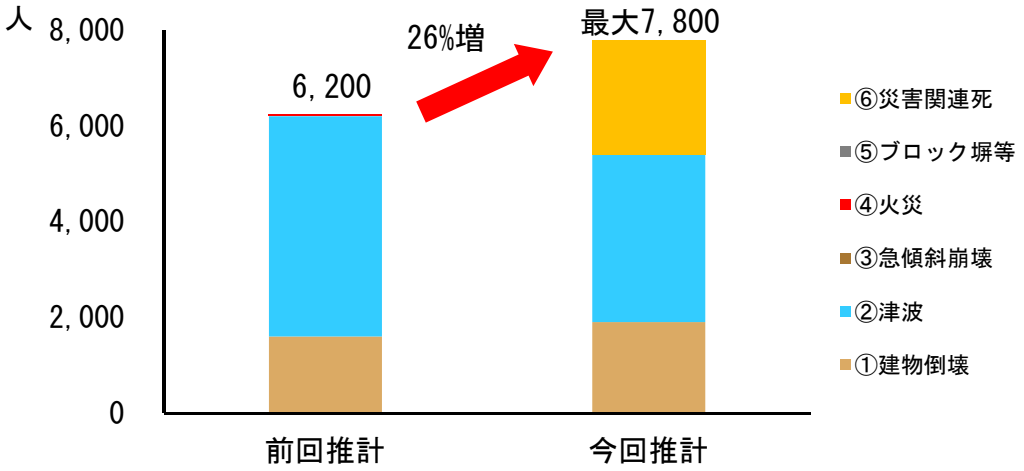
# 3.2 人的被害（南海トラフの最大クラスの地震（L2））

## ○ 人的被害（死者数）

（単位：人）

| 項目 | 前回推計<br>（H25） a | 今回推計<br>（R7） b | 増減 （b-a）<br>（H25→R7増減率） |
|---|---|---|---|
| ①建物倒壊 | 1,600 | 1,900 | 300<br>（ 19% 増） |
| ②津波 | 4,600 | 3,500 | ▲ 1,100<br>（ 24% 減） |
| ③急傾斜地崩壊 | * | * | * |
| ④火災 | 40 | * | ▲ 40<br>（ 100% 減） |
| ⑤ブロック塀等 | * | * | * |
| ⑥災害関連死 | － | 1,200～2,400 | 1,200～2,400<br>（ 皆増 ） |
| 計 | 6,200 | 最大7,800 | 1,600<br>（ 26% 増） |

※想定シーン：冬・朝5時、＊：わずかにある、 ―：算定していない




**前回との差異の要因**

- 前回推計と比較して、津波到達までの時間的な猶予を考慮して推計した津波による人的被害（死者数）は、減少した一方、揺れによる建物の全壊棟数が増加したことなどから、揺れによる人的被害が増加した。
- 今回新たに「災害関連死者数」を推計した結果、人的被害（死者数）の計は増加した。

# 3.3 ライフライン被害（南海トラフの最大クラスの地震（L2））

○ ライフライン被害（発災直後の被害）

| 施設 | 単位 | 前回推計 | 今回推計 | 増減（b-a） |
|---|---|---|---|---|
| | | （H25）a | （R7）b | （H25→R7増減率） |
| ①上水道【断水人口】<br>［断水率］ | 人 | 763,000<br>［78%］ | 773,000<br>［81%］ | 10,000<br>（ 1% 増） |
| ②下水道【支障人口】<br>［支障率］ | 人 | 141,000<br>［28%］ | 155,000<br>［35%］ | 14,000<br>（ 10% 増） |
| ③電力【停電戸数】<br>［停電率］ | 戸 | 587,000<br>［99%］ | 560,000<br>［97%］ | ▲ 27,000<br>（ 5% 減） |
| ④通信【固定電話不通回線数】<br>［不通回線率］ | 回線 | 190,000<br>［78%］ | 260,000<br>［98%］ | 70,000<br>（ 37% 増） |

※想定シーン：冬・朝5時

**前回との差異の要因**

- 前回推計と比較して、地震の揺れや液状化危険度の高まり、津波浸水域の拡大などの影響により、上水道、下水道、通信の被害が増加し、電力の停電率は依然高い率となった。

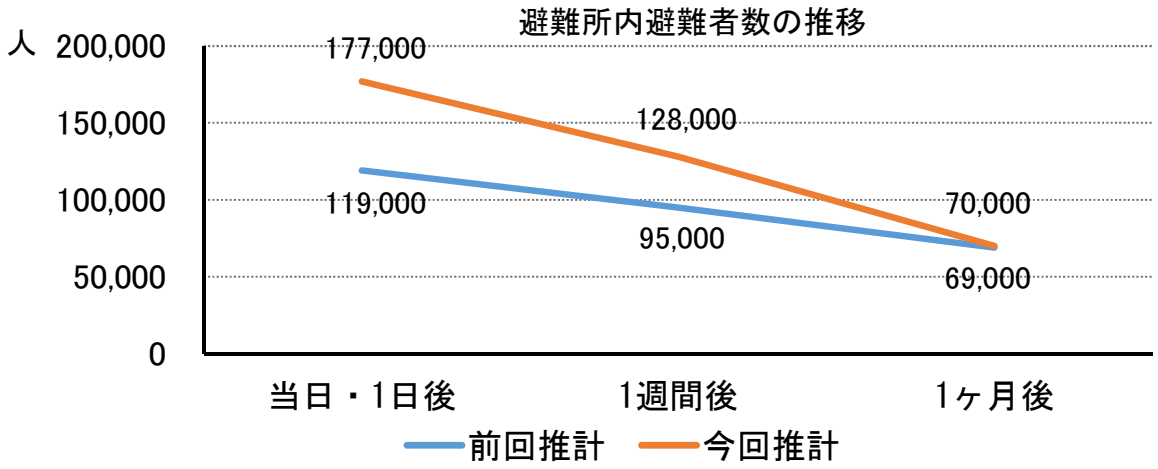
# 3.4 生活への影響（南海トラフの最大クラスの地震（L2））

## ○ 避難者数

（単位：人）

| 避難者 | | 前回推計 （H25） a | 今回推計 （R7） b | 増減 （b-a） （H25→R7増減率） |
|---|---|---|---|---|
| 当日・1日後 | 避難所内 | 119,000 | 177,000 | 58,000 （49%増） |
| | 避難所外 | 80,000 | 99,000 | 19,000 （24%増） |
| | 全避難者 | 199,000 | 276,000 | 77,000 （39%増） |
| 1週間後 | 避難所内 | 95,000 | 128,000 | 33,000 （35%増） |
| | 避難所外 | 37,000 | 91,000 | 54,000 （146%増） |
| | 全避難者 | 132,000 | 219,000 | 87,000 （66%増） |
| 1か月後 | 避難所内 | 69,000 | 70,000 | 1,000 （1%増） |
| | 避難所外 | 161,000 | 164,000 | 3,000 （2%増） |
| | 全避難者 | 230,000 | 235,000 | 5,000 （2%増） |

※想定シーン：冬・朝5時




**前回との差異の要因**

- 前回推計と比較して、津波浸水域が拡大したことや、建物の被害棟数が増加したこと等により、避難者数が増加した。

# 3.4 物的被害・人的被害等想定（総括表）

## ○主な被害推計の結果（南海トラフ（L2、L1）、中央構造線断層帯、長尾断層帯）

| 項目 | | 単位 | 南海トラフ（最大クラス（L2））前回 (a) | 南海トラフ（最大クラス（L2））今回 (b) | 南海トラフ（最大クラス（L2））増減 (b-a) | 南海トラフ（発生頻度の高いもの（L1））前回 (c) | 南海トラフ（発生頻度の高いもの（L1））今回 (d) | 南海トラフ（発生頻度の高いもの（L1））増減 (d-c) | 中央構造線断層帯 前回 (e) | 中央構造線断層帯 今回 (f) | 中央構造線断層帯 増減 (f-e) | 長尾断層帯 前回 (g) | 長尾断層帯 今回 (h) | 長尾断層帯 増減 (h-g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建物被害（全壊・焼失） | ①揺れ | 棟数 | 25,000 | 31,000 | 6,000 | 410 | 710 | 300 | 21,000 | 24,000 | 3,000 | 660 | 3,400 | 2,700 |
| | ②液状化 | 棟数 | 2,500 | 3,800 | 1,300 | 1,900 | 2,400 | 500 | 3,000 | 2,800 | ▲200 | 1,300 | 1,300 | 0 |
| | ③津波 | 棟数 | 2,000 | 3,500 | 1,500 | 40 | 50 | 10 | – | – | – | – | – | – |
| | ④急傾斜地崩壊 | 棟数 | 220 | 70 | ▲150 | * | 0 | * | 110 | 40 | ▲70 | 20 | 20 | 0 |
| | ⑤地震火災 | 棟数 | 5,700 | 1,100 | ▲4,600 | * | 60 | 60 | 5,700 | 820 | ▲4,900 | * | 130 | 130 |
| 建物被害（全壊・焼失） 合計 | | 棟数 | 35,000 | 39,000 | 4,000 | 2,400 | 3,200 | 800 | 30,000 | 28,000 | ▲2,000 | 2,000 | 4,900 | 2,900 |
| 人的被害（死者数） | ①建物倒壊 | 人 | 1,600 | 1,900 | 300 | 20 | 40 | 20 | 1,300 | 1,500 | 200 | 40 | 200 | 160 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | 140 | 100 | ▲40 | * | * | * | 130 | 90 | ▲40 | * | * | * |
| | ②津波 | 人 | 4,600 | 3,500 | ▲1,100 | 20 | 90 | 70 | – | – | – | – | – | – |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | * | * | * | * | 0 | * | * | * | * | * | * | * |
| | ④火災 | 人 | 40 | * | ▲40 | * | 0 | * | 40 | * | ▲40 | * | * | * |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| | ⑥災害関連死 | 人 | – | 1,200～2,400 | 1,200～2,400 | – | 100～200 | 100～200 | – | 600～1,200 | 600～1,200 | – | 150～300 | 150～300 |
| 人的被害（死者数） 合計 | | 人 | 6,200 | 最大7,800 | 最大1,600 | 40 | 最大330 | 最大290 | 1,300 | 最大2,700 | 最大1,400 | 40 | 最大500 | 最大460 |
| 人的被害（負傷者数） | ①建物倒壊 | 人 | 16,000 | 18,000 | 2,000 | 1,200 | 1,700 | 500 | 12,000 | 15,000 | 3,000 | 1,300 | 3,500 | 2,200 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | 2,300 | 1,800 | ▲500 | 30 | 310 | 280 | 1,900 | 1,600 | ▲300 | 40 | 500 | 460 |
| | ②津波 | 人 | 3,100 | 2,600 | ▲500 | 20 | 180 | 160 | – | – | – | – | – | – |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | * | * | * | * | 0 | * | * | * | * | * | * | * |
| | ④火災 | 人 | 20 | * | ▲20 | * | 0 | * | 20 | * | ▲20 | * | * | * |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| 人的被害（負傷者数） 合計 | | 人 | 19,000 | 21,000 | 2,000 | 1,200 | 1,900 | 700 | 12,000 | 15,000 | 3,000 | 1,300 | 3,500 | 2,200 |
| ライフライン被害（発災直後） | 上水道（断水人口） | 人 | 763,000 | 773,000 | 10,000 | 226,000 | 287,000 | 61,000 | 622,000 | 732,000 | 110,000 | 205,000 | 346,000 | 141,000 |
| | 上水道断水率 | % | 78% | 81% | 3p | 23% | 30% | 7p | 63% | 77% | 14p | 21% | 36% | 15p |
| | 下水道（支障人口） | 人 | 141,000 | 155,000 | 14,000 | 11,000 | 24,000 | 13,000 | 30,000 | 43,000 | 13,000 | 12,000 | 24,000 | 12,000 |
| | 下水道支障率 | % | 28% | 35% | 7p | 2% | 5% | 3p | 6% | 10% | 4p | 2% | 5% | 3p |
| | 電力（停電戸数） | 戸 | 587,000 | 560,000 | ▲27,000 | 88,000 | 98,000 | 10,000 | 486,000 | 519,000 | 33,000 | 153,000 | 243,000 | 90,000 |
| | 停電率 | % | 99% | 97% | ▲2p | 15% | 17% | 2p | 82% | 90% | 8p | 26% | 42% | 16p |
| | 通信（固定電話不通回線数） | 回線 | 190,000 | 260,000 | 70,000 | 30,000 | 40,000 | 10,000 | 187,000 | 241,000 | 54,000 | 51,000 | 107,000 | 56,000 |
| | 不通回線率 | % | 78% | 98% | 20p | 12% | 15% | 3p | 76% | 90% | 14p | 21% | 40% | 19p |
| | 携帯通信停波基地局率 | % | 70% | 98% | 28p | 13% | 15% | 2p | 71% | 90% | 19p | 21% | 40% | 19p |
| 生活への影響 | 避難所避難者数（当日・1日後） | 人 | 119,000 | 177,000 | 58,000 | 35,000 | 14,000 | ▲21,000 | 27,000 | 51,000 | 24,000 | 2,400 | 13,000 | 11,000 |

・端数処理により合計が合わない場合がある。

・想定シーン（季節・時間帯）は、人的被害が最大となる冬・朝5時とする。
（ただし、建物被害⑤地震火災のみ、その被害が最大となる冬・夕方18時とする。）

（注）＊：わずかにある　　―：推計していない

※ブロック塀等被害：ブロック塀・自動販売機等の転倒、屋外落下物による被害

・p：ポイント（%の比較はポイント表示）

# 4.1 これまでの減災効果

## 1．津波に対するハード対策

### （1）減災効果の検討方法

・平成27年3月に策定した「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に基づき、「発生頻度の高い津波」に対して海岸堤防等の嵩上げ等の整備を行っており、平成27年度から令和6年度までの10年間をⅠ期計画として、特に優先度の高い箇所を重点的・集中的に整備を進めてきた。
・これまで県や市町が進めてきた海岸堤防等整備の減災効果を確認するため、堤防等の構造物を前回推計で設定（平成24年度）したものを「対策前」として、今回推計で設定（Ⅰ期完了）したものを「対策後」として津波シミュレーションを行い、比較・検討する。この津波シミュレーション条件として、以下に示すとおり、対策前と対策後のいずれも今回推計で用いた初期潮位とするなど、堤防高や水門・陸閘の状況以外の条件を同じにして、比較した。

・津波シミュレーション条件の設定

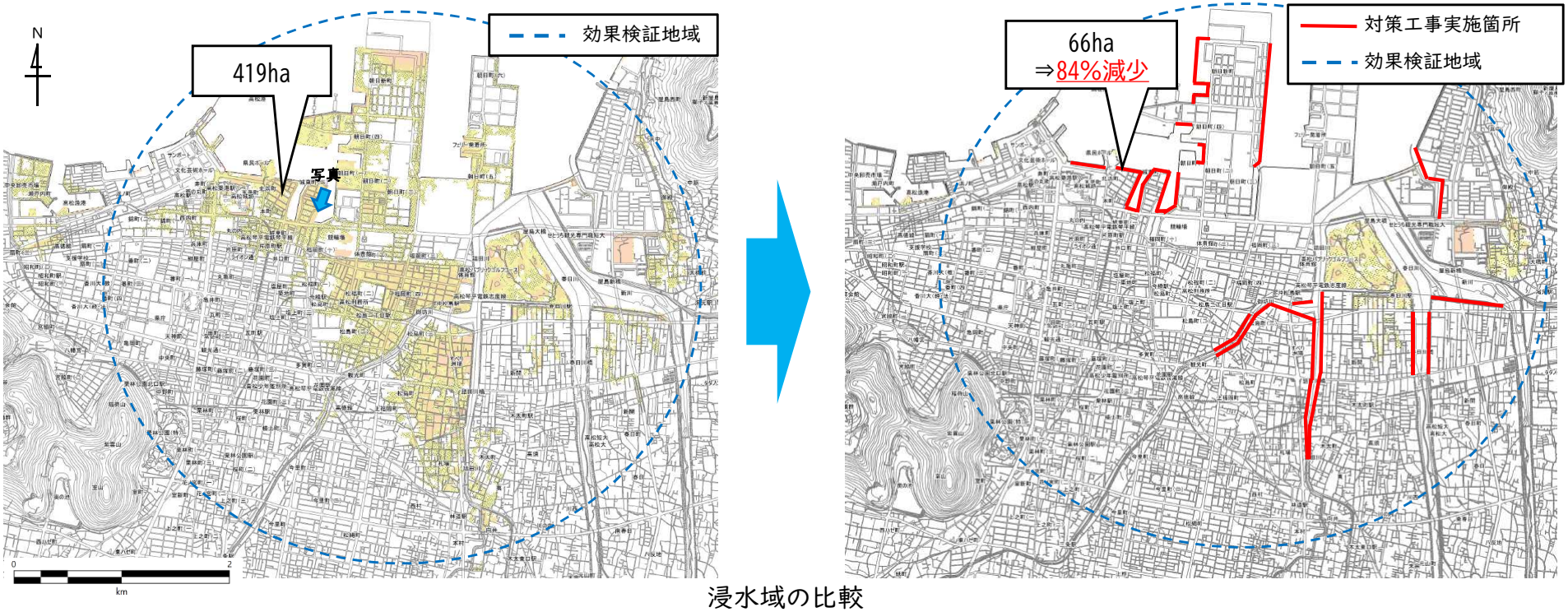
| 項目 | 対策前 | 対策後 |
|---|---|---|
| 対象津波 | 発生頻度の高い津波(L1) | |
| 初期潮位 | 直近5年間の朔望平均満潮位の統計値(令和元～5年)と<br>港湾構造物設計に用いる朔望平均満潮位のうち高い方 | |
| 構造物の沈下・破壊 | 沈下しない<br>津波が構造物を乗り越えた場合、破壊 | |
| 地形 | 国土地理院の最新の航空レーザ(LP)測量データ | |
| 地震による地盤の変動 | 海域：隆起・沈降を考慮<br>陸域：沈降のみ考慮 | |
| 液状化による地盤沈下 | 考慮しない | |
| 堤防等の構造物 | 前回推計で設定(平成24年度)した構造物の<br>形状・高さ | 今回推計で設定(Ⅰ期完了)した構造物の<br>形状・高さ |
| 水門・陸閘 | 開設定 | 閉設定 |

# 4.1 これまでの減災効果

## 1. 津波に対するハード対策

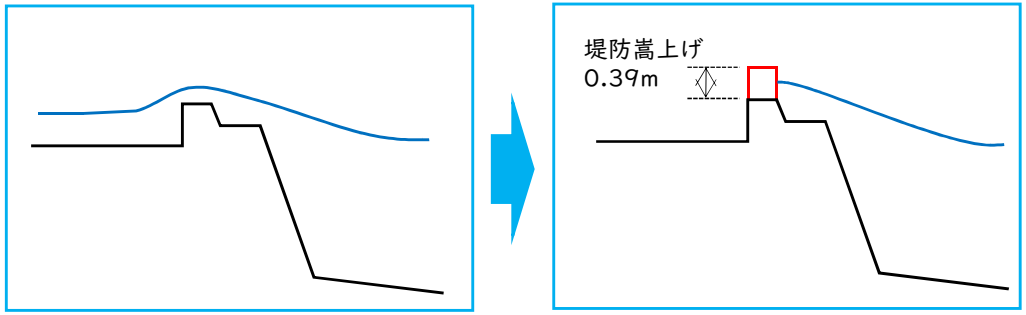
### ① 効果検証地域（高松港ほか）

| 効果検証地域 | 対策前<br>① | 対策後<br>② | 減災効果<br>①－② |
|---|---|---|---|
| 津波浸水区域面積 | 419ha | 66ha | ▲353ha<br>（▲84%） |
| 津波浸水区域内の建物棟数 | 約5，700棟 | 約400棟 | ▲約5，300棟<br>（▲93%） |




浸水域の比較

対策工事施工前後の写真



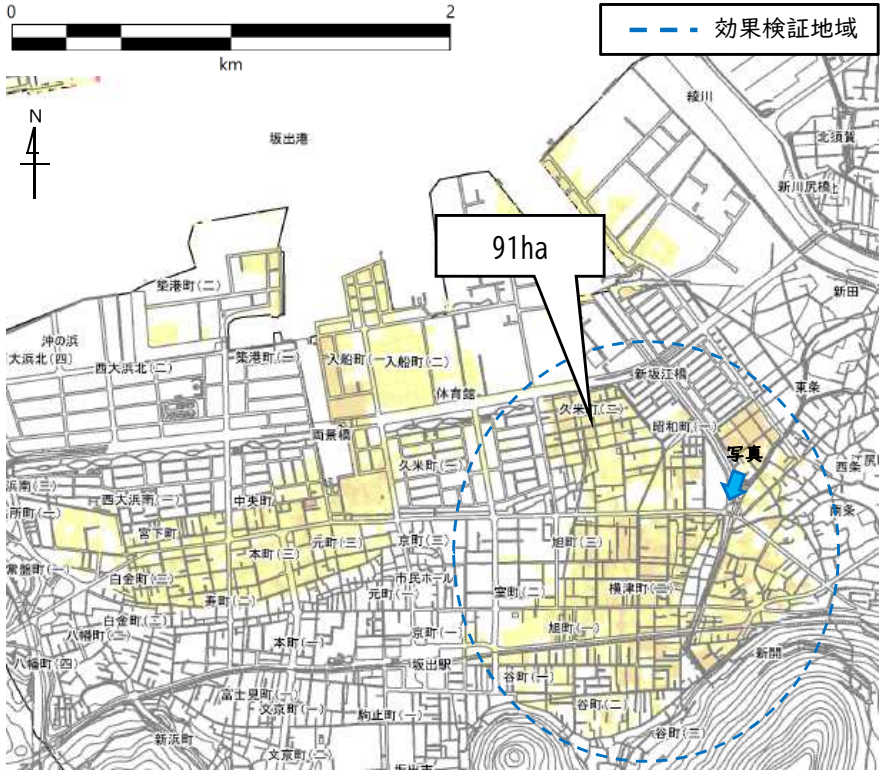

対策工事横断面図

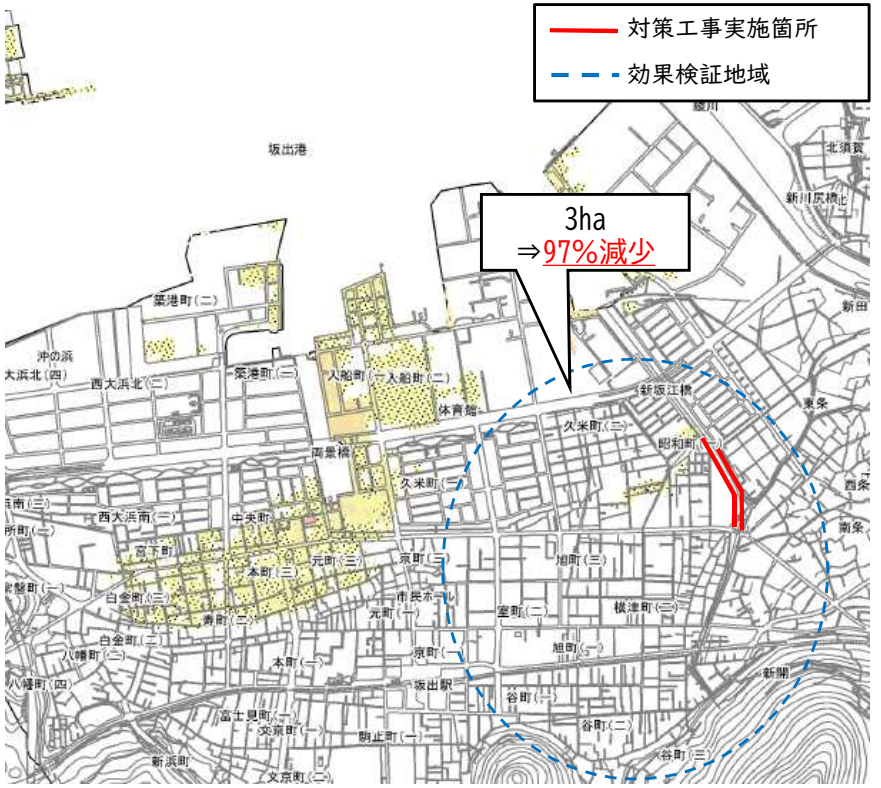
# 4.1 これまでの減災効果

## 1. 津波に対するハード対策

### ② 効果検証地域（坂出港）

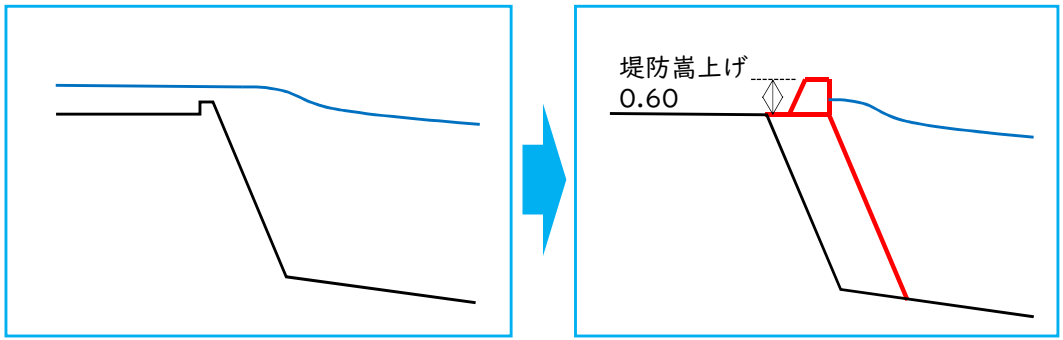
| 効果検証地域 | 対策前<br>① | 対策後<br>② | 減災効果<br>①－② |
|---|---|---|---|
| 津波浸水区域面積 | 91ha | 3ha | ▲88ha<br>（▲97%） |
| 津波浸水区域内の建物棟数 | 約1，900棟 | 約50棟 | ▲約1，900棟<br>（▲98%） |




浸水域の比較

対策工事施工前後の写真



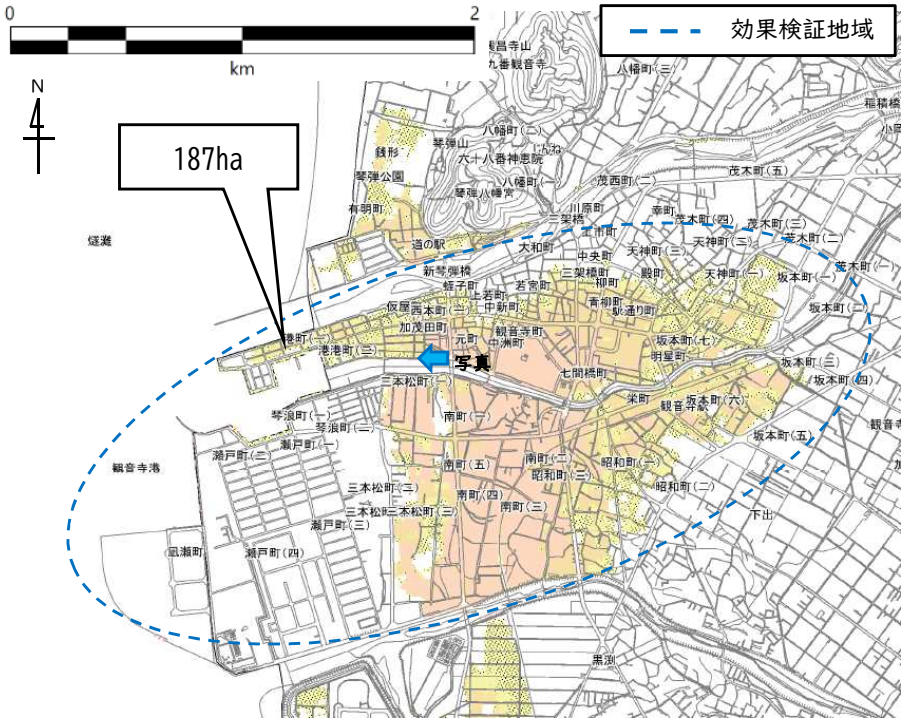

対策工事横断面図

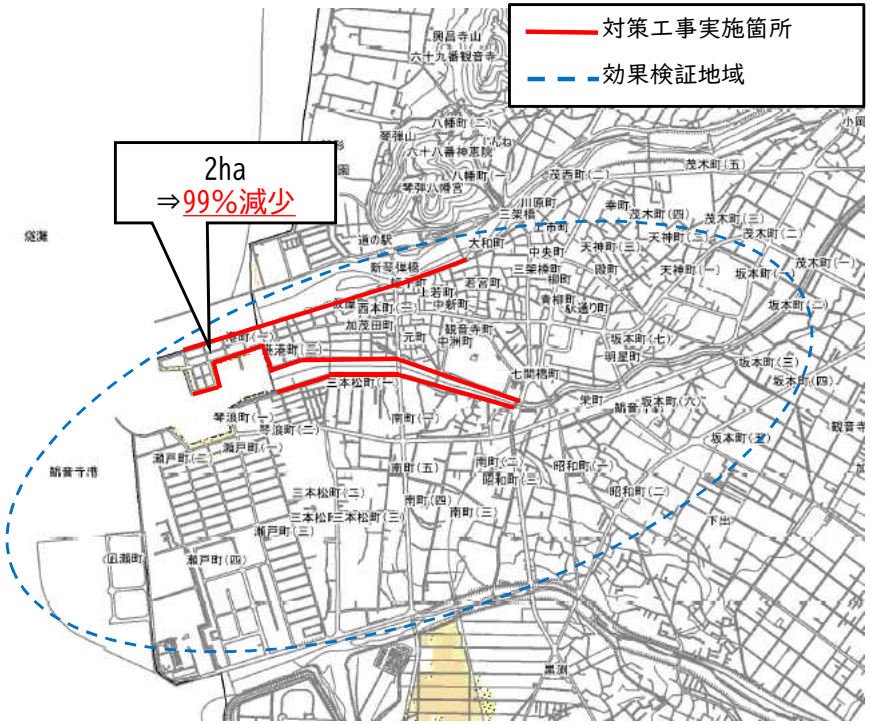
# 4.1 これまでの減災効果

## 1. 津波に対するハード対策

### ③ 効果検証地域（観音寺港）

| 効果検証地域 | 対策前<br>① | 対策後<br>② | 減災効果<br>①－② |
|---|---|---|---|
| 津波浸水区域面積 | 187ha | 2ha | ▲185ha<br>（▲99%） |
| 津波浸水区域内の建物棟数 | 約2，900棟 | 約0棟 | ▲約2，900棟<br>（▲100%） |



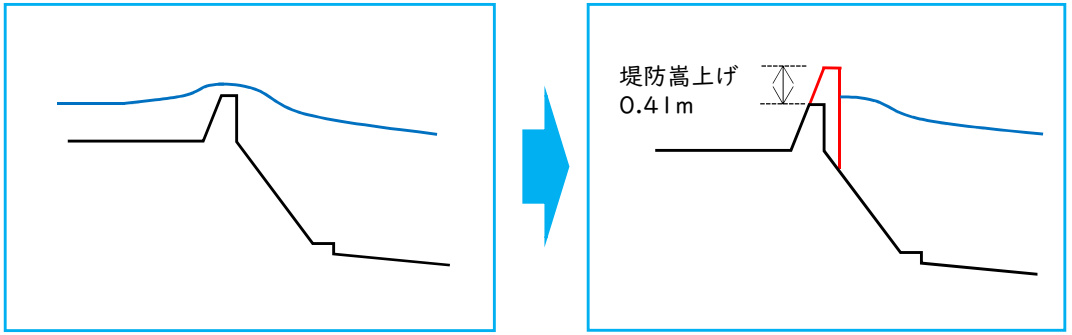




浸水域の比較

施工前

施工後

対策工事施工前後の写真



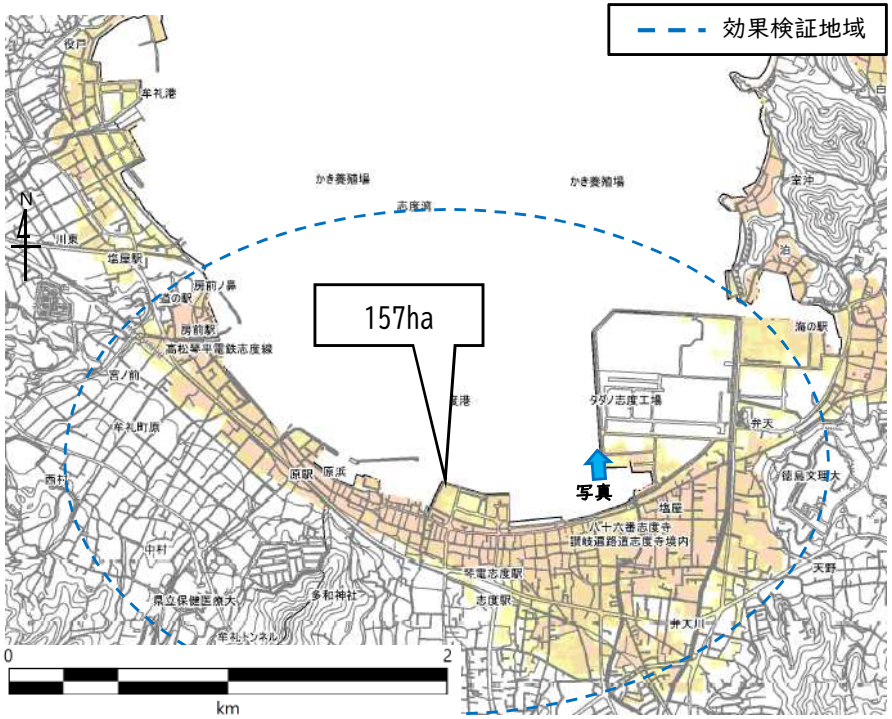

対策工事横断面図

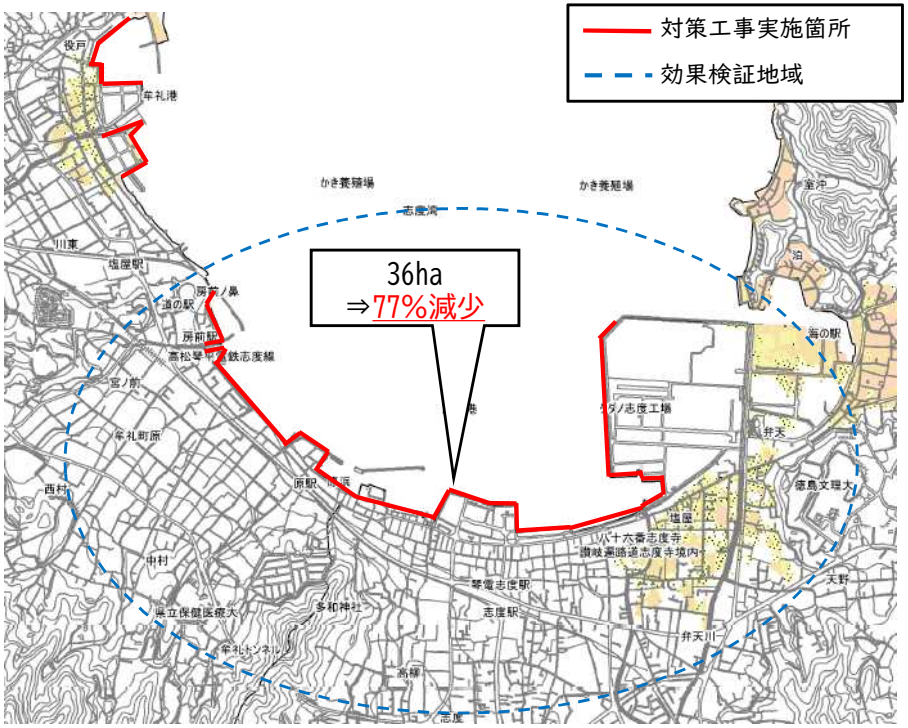
# 4.1 これまでの減災効果

## 1. 津波に対するハード対策

### ④ 効果検証地域（志度港）

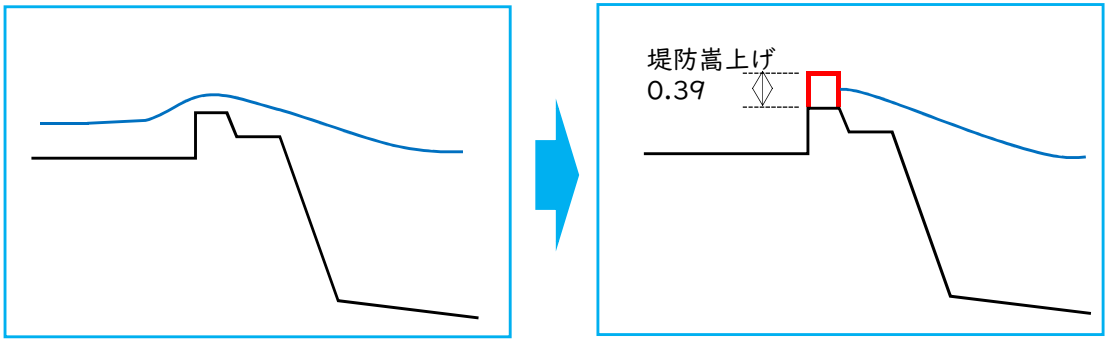
| 効果検証地域 | 対策前<br>① | 対策後<br>② | 減災効果<br>①－② |
|---|---|---|---|
| 津波浸水区域面積 | 157ha | 36ha | ▲121ha<br>（▲77%） |
| 津波浸水区域内の建物棟数 | 約2，400棟 | 約390棟 | ▲約2，000棟<br>（▲84%） |




浸水域の比較

対策工事施工前後の写真



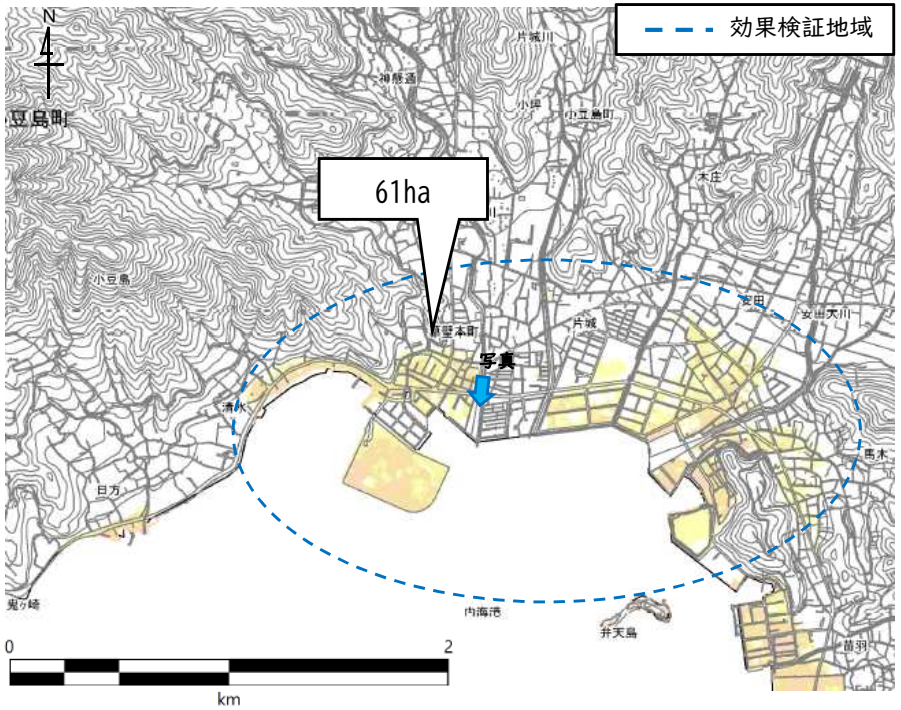

対策工事横断面図

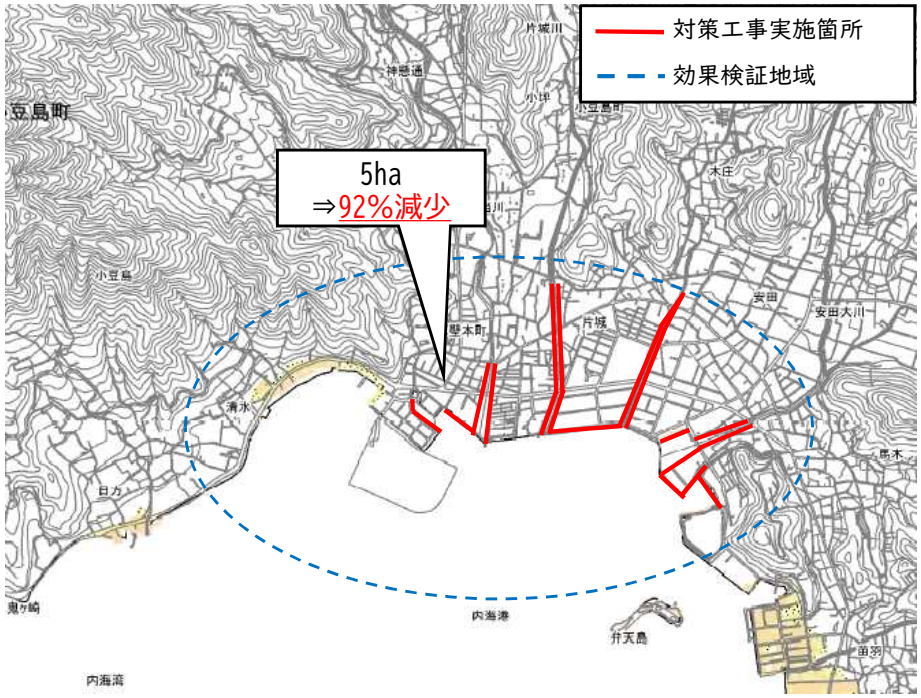
# 4.1 これまでの減災効果

## 1. 津波に対するハード対策

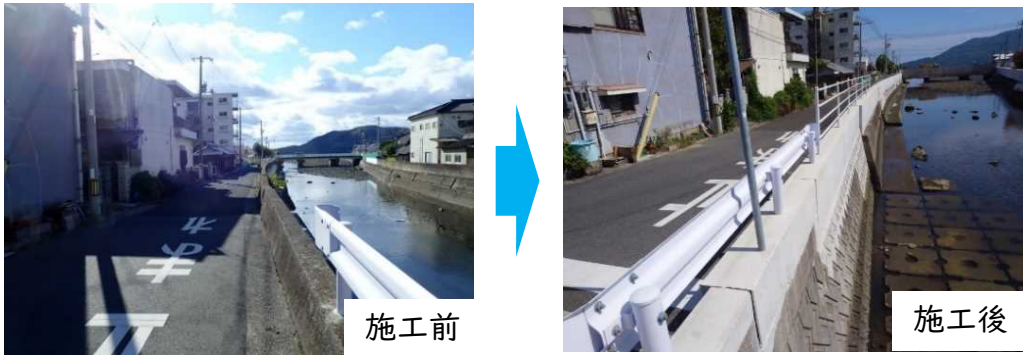
### ⑤ 効果検証地域（内海港）

| 効果検証地域 | 対策前<br>① | 対策後<br>② | 減災効果<br>①－② |
|---|---|---|---|
| 津波浸水区域面積 | 61ha | 5ha | ▲56ha<br>（▲92%） |
| 津波浸水区域内の建物棟数 | 約870棟 | 約40棟 | ▲約830棟<br>（▲96%） |

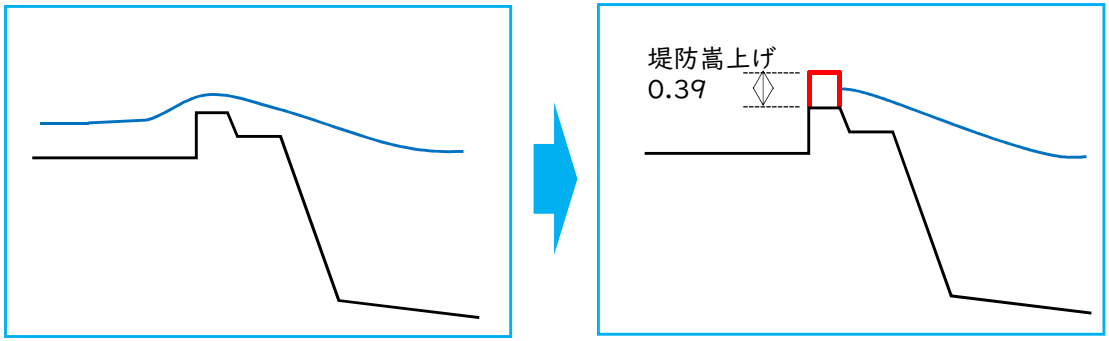



浸水域の比較




対策工事施工前後の写真




対策工事横断面図

# 4.1 これまでの減災効果

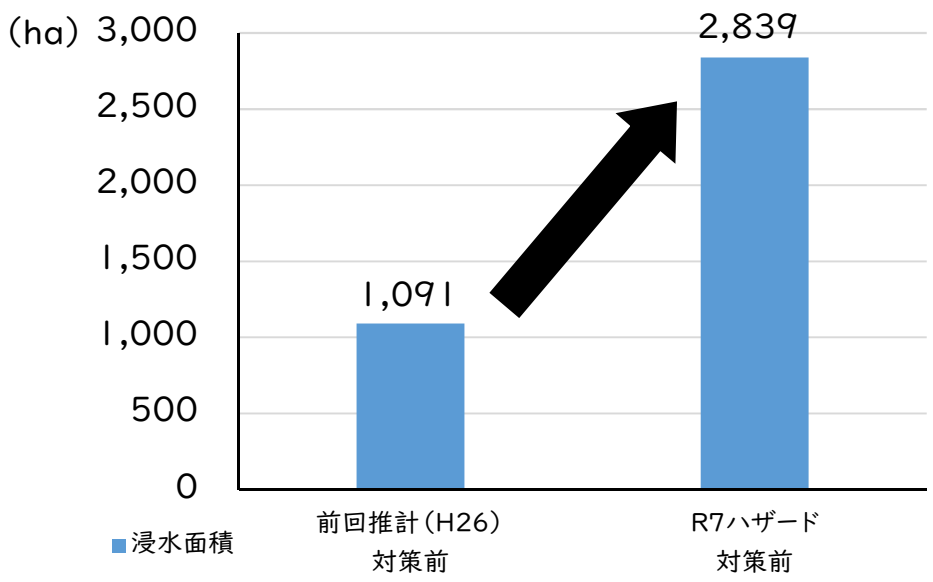
## 1. 津波に対するハード対策

### (2) 津波に対する減災効果のまとめ

南海トラフ発生頻度の高い津波（L1）について、県全体の浸水面積で減災効果を比較する。

#### ①初期潮位が上昇した影響

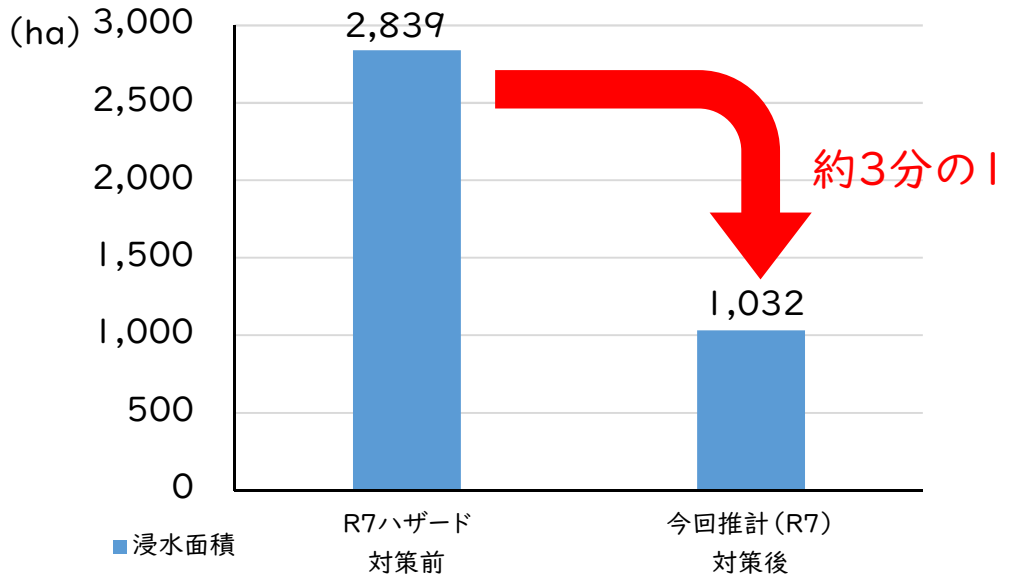
⇒堤防等の構造物や水門・陸閘を前回推計の条件下で、
今回の推計の初期潮位で津波が発生した場合
浸水面積 ： 1,091ha ⇒ 2,839ha




#### ②津波に対するハード対策の効果

浸水面積 ： 2,839ha ⇒ 1,032ha

浸水面積が**約3分の1**に軽減




**対策前後の比較**

・津波に対するハード対策を進めたことにより、今回設定した初期潮位等の条件で比較すると、対策前に比べて県全体で浸水域が大きく減少した。
・引き続きハード対策を進めていくことで、さらに浸水域が減少することが見込まれる。

# 4.2 これまでの減災効果

## 1. 建物の耐震化

### (1) 減災効果の検討方法

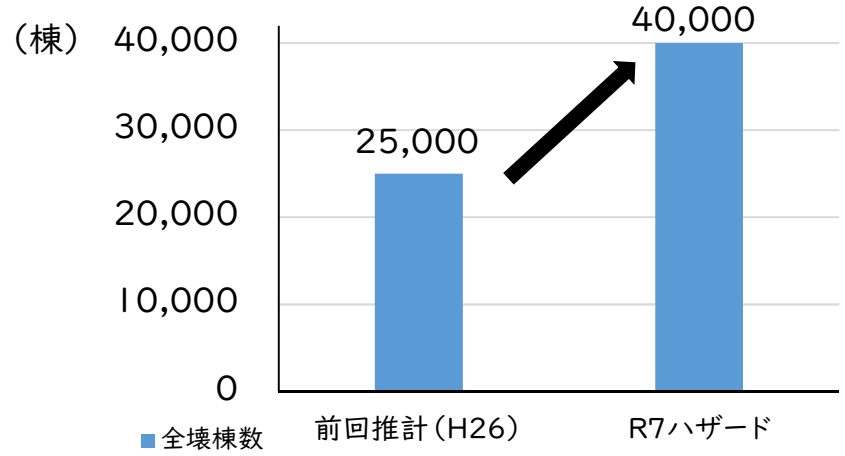
・ 今回推計の南海トラフ(L2)の震度分布は、前回推計に比べ、建物被害が増える震度6強以上の地域が増加した。
・ 建物の耐震化率が向上したことによる減災効果を確認するため、①前回推計の耐震化率76%のままの条件下で、今回推計の南海トラフ地震(最大クラス)の揺れが発生した場合の被害量を算出(R7ハザード・耐震化率76%)したうえで、②耐震化率86%で今回推計の地震の揺れが発生した場合の被害量を比較・検討する。

**対策前後の比較**

・ 県内の建物の耐震化率は、前回推計(H26)時点では76%だったが、今回推計(R7)では86%となっている。
・ 旧耐震基準の建物の建替えや耐震改修により、耐震化率が向上したことで、全壊棟数が約4分の3に軽減された。

#### ①地震の揺れが大きくなった影響

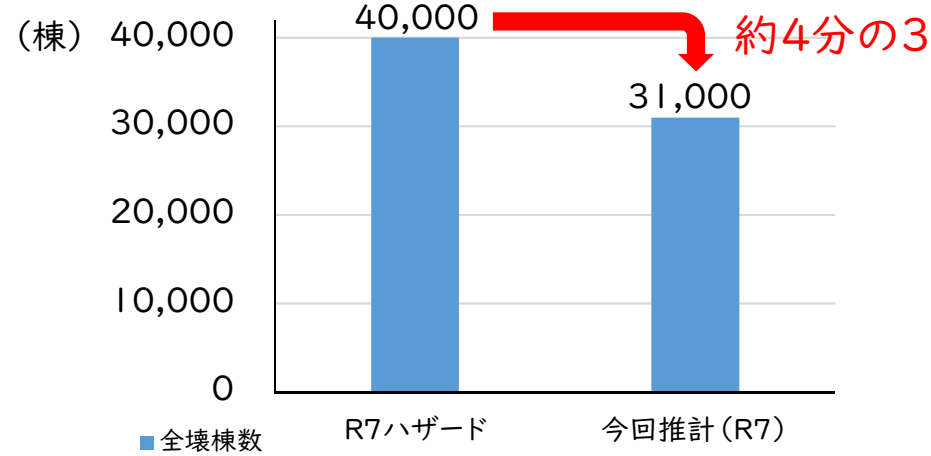
震度6強以上の地域の県土に占める割合
H26:18.0% ⇒ R7:26.1% (8.1ポイント増)
⇒耐震化率が前回推計76%の条件下で
今回の推計の地震の揺れが発生した場合
全壊棟数 : 25,000棟 ⇒ 40,000棟




#### ②建物の耐震化率が向上したことによる効果

耐震化率が前回推計時から今回推計時で10ポイント向上
⇒ 全壊棟数 : 40,000棟 ⇒ 31,000棟

全壊棟数が**約4分の3**に軽減



# 4.3 今後の減災効果の予測

## （1）減災効果の予測の検討

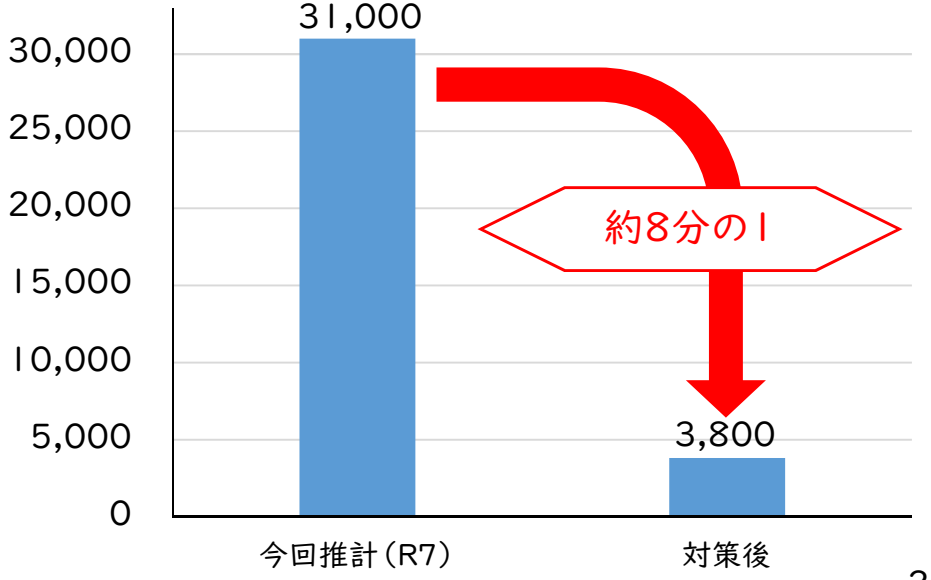
・減災効果の予測について、以下の①～③の対策を講じた場合、南海トラフの最大クラスの地震による被害想定が、どの程度軽減されるか、評価した。
①全ての建物の耐震性が強化された場合（建物の耐震化率が100%になった場合）
②家具類の転倒・落下防止対策実施率が100%になった場合
③津波に対して、すぐに避難する県民が100%になった場合

## ①建物の耐震化

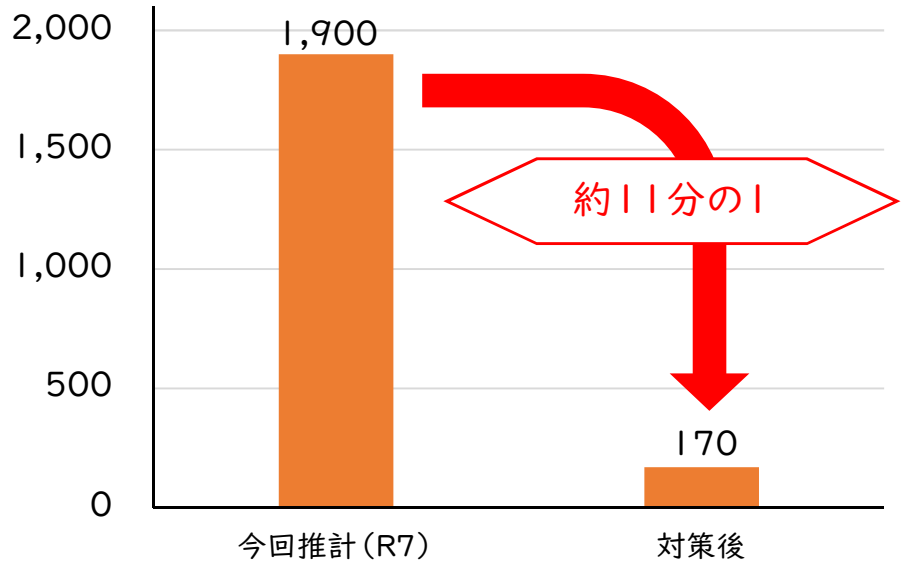
**対策前後の比較**

・県内の建物の耐震化率は、約86%（令和5年現在）である。
・旧耐震基準の建物の建替えや耐震改修により、全ての建物の耐震性が強化された場合（耐震化率100%）には、揺れに伴う**全壊数は約8分の1**に、それに伴う**死者数は約11分の1に軽減**される。

揺れに対する建物の耐震化による
全壊棟数の軽減（棟）




揺れに対する建物の耐震化による
死者数の軽減（人）



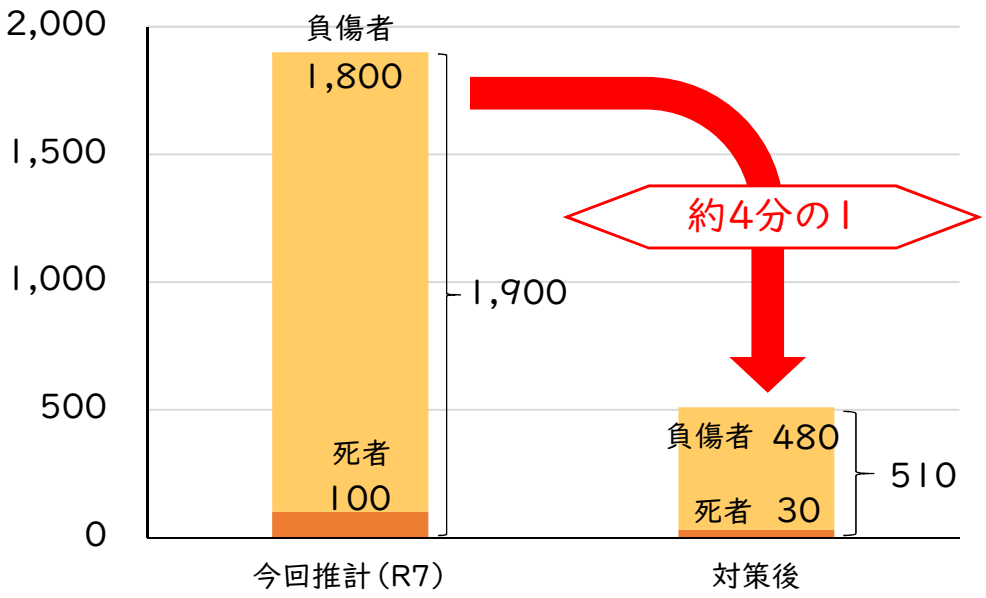
# 4.3 今後の減災効果の予測

## ②家具類の転倒・落下防止対策

**対策前後の比較**

・ 県内の家具類の転倒・落下防災対策実施率は、17.9%（令和6年県政世論調査）となっている。
・ この実施率を100%にすることで、死傷者数は、**約4分の1に軽減**される。

家具類の転倒・落下防止対策による
死傷者数の軽減（人）



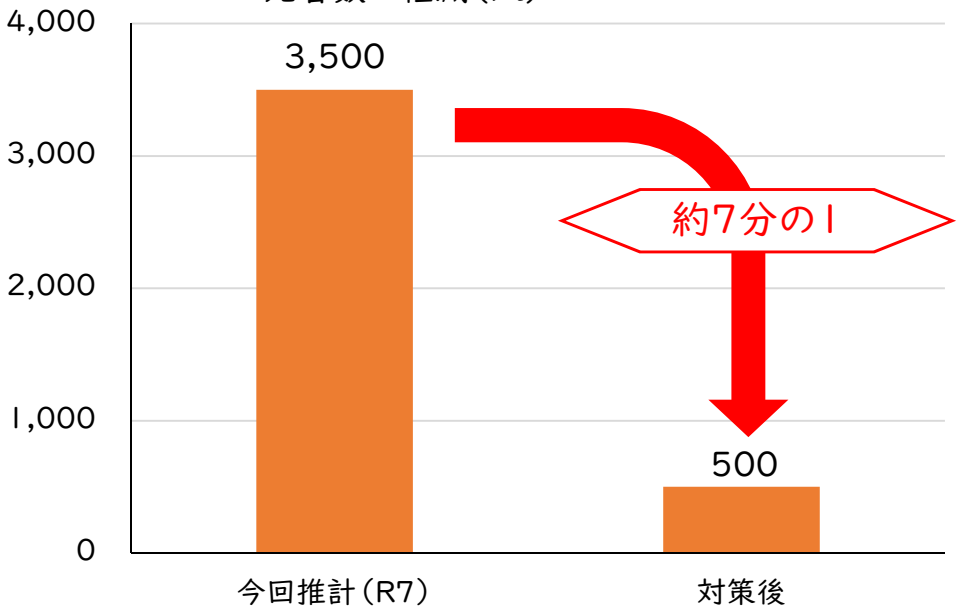

## ③津波避難の早期化

**対策前後の比較**

・ 地震発生後、すぐに避難する県民が100%になり、かつ、全ての建物の耐震性が強化され、避難できる県民が増えることで、死者数は**約7分の1に軽減**される。

| 項目 | 避難行動別の比率 | | | 検討ケース |
|---|---|---|---|---|
| | 避難する | | 切迫避難あるいは避難しない | |
| | すぐに避難する（直接避難） | 避難するがすぐには避難しない（用事後避難） | | |
| 早期避難者比率が低い場合（早期避難率低） | 20% | 50% | 30% | 現況 |
| 全員が発災後すぐに避難を開始した場合（避難開始迅速化） | 100% | 0% | 0% | 対策実施後 |

早期避難の実施及び建物の耐震化等による
死者数の軽減（人）



参考

○参考資料

「市町別物的被害・人的被害等想定（総括表）」

・南海トラフ（最大クラス（L2））

・南海トラフ（発生頻度の高いもの（L1））

・中央構造線断層帯

・長尾断層帯

# 【参考】市町別物的被害・人的被害等想定（総括表）

## ○ 南海トラフ（最大クラス（L2））

| 被害想定項目 | | 推計 | 高松市 | 丸亀市 | 坂出市 | 善通寺市 | 観音寺市 | さぬき市 | 東かがわ市 | 三豊市 | 土庄町 | 小豆島町 | 三木町 | 直島町 | 宇多津町 | 綾川町 | 琴平町 | 多度津町 | まんのう町 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建物被害（全壊・焼失） | ①揺れ | 棟数 | 5,400 | 1,700 | 760 | 750 | 7,000 | 2,000 | 3,300 | 5,600 | 390 | 840 | 650 | 40 | 130 | 180 | 230 | 840 | 750 | 31,000 |
| | ②液状化 | 棟数 | 1,400 | 430 | 340 | 80 | 260 | 240 | 200 | 290 | 110 | 120 | 110 | 30 | 80 | 20 | * | 120 | 40 | 3,800 |
| | ③津波 | 棟数 | 890 | 260 | 220 | － | 300 | 850 | 80 | 500 | 50 | 280 | － | 10 | 40 | － | － | 60 | － | 3,500 |
| | ④急傾斜地崩壊 | 棟数 | 10 | * | 0 | 0 | * | * | * | 10 | 20 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | * | 70 |
| | ⑤地震火災 | 棟数 | 290 | 70 | 20 | 30 | 240 | 40 | 70 | 180 | 10 | 30 | 10 | 0 | 0 | 0 | 20 | 70 | * | 1,100 |
| 建物被害（全壊・焼失） 合計 | | 棟数 | 8,000 | 2,500 | 1,300 | 860 | 7,800 | 3,100 | 3,700 | 6,600 | 580 | 1,300 | 770 | 80 | 250 | 200 | 250 | 1,100 | 790 | 39,000 |
| 人的被害（死者数） | ①建物倒壊 | 人 | 310 | 100 | 40 | 50 | 450 | 120 | 220 | 350 | 20 | 50 | 40 | * | * | * | 10 | 50 | 50 | 1,900 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | 20 | * | * | * | 20 | * | * | 20 | * | * | * | 0 | * | * | * | * | * | 100 |
| | ②津波 | 人 | 1,100 | 180 | 310 | － | 450 | 520 | 190 | 350 | 80 | 210 | － | * | 30 | － | － | 80 | － | 3,500 |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | * |
| | ④火災 | 人 | * | * | 0 | * | * | * | * | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | * |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| | ⑥災害関連死 | 人 | 450～900 | 90～180 | 100～200 | 20～40 | 110～220 | 60～120 | 50～100 | 90～180 | 30～60 | 40～80 | 20～40 | * | 40～80 | * | * | 40～80 | 10～20 | 1,200～2,400 |
| 人的被害（死者） 合計 | | 人 | 最大2,300 | 最大460 | 最大550 | 最大90 | 最大1,100 | 最大760 | 最大510 | 最大880 | 最大160 | 最大340 | 最大80 | * | 最大110 | * | 10 | 最大210 | 最大70 | 最大7,800 |
| 人的被害（負傷者数） | ①建物倒壊 | 人 | 4,800 | 1,500 | 710 | 630 | 2,500 | 1,200 | 1,300 | 2,500 | 300 | 490 | 490 | 40 | 120 | 230 | 180 | 570 | 490 | 18,000 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | 490 | 150 | 50 | 50 | 320 | 110 | 140 | 250 | 10 | 30 | 50 | * | 10 | 20 | 20 | 50 | 40 | 1,800 |
| | ②津波 | 人 | 790 | 120 | 200 | － | 80 | 590 | 150 | 90 | 170 | 300 | － | 20 | * | － | － | 60 | － | 2,600 |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | * |
| | ④火災 | 人 | * | * | 0 | 0 | * | * | * | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | * |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| 人的被害（負傷者） 合計 | | 人 | 5,600 | 1,600 | 910 | 630 | 2,600 | 1,800 | 1,500 | 2,600 | 470 | 790 | 490 | 60 | 120 | 230 | 180 | 630 | 490 | 21,000 |
| ライフライン被害〔発災直後〕 | 上水道（断水人口） | 人 | 338,000 | 92,000 | 40,000 | 26,000 | 51,000 | 38,000 | 24,000 | 53,000 | 7,700 | 9,900 | 23,000 | 1,800 | 14,000 | 15,000 | 6,900 | 19,000 | 14,000 | 773,000 |
| | 上水道断水率 | % | 81% | 83% | 79% | 83% | 89% | 81% | 84% | 85% | 60% | 71% | 86% | 58% | 81% | 65% | 82% | 85% | 82% | 81% |
| | 下水道（支障人口） | 人 | 87,000 | 14,000 | 14,000 | 2,100 | 9,800 | 9,200 | 4,500 | － | － | － | 1,100 | 840 | 3,900 | 630 | 590 | 6,800 | 410 | 155,000 |
| | 下水道支障率 | % | 32% | 29% | 95% | 12% | 86% | 38% | 99% | － | － | － | 14% | 31% | 24% | 7% | 15% | 52% | 15% | 35% |
| | 電力（停電戸数） | 戸 | 246,000 | 60,000 | 27,000 | 18,000 | 34,000 | 27,000 | 17,000 | 35,000 | 13,000 | 15,000 | 15,000 | 2,300 | 11,000 | 12,000 | 5,200 | 12,000 | 9,600 | 560,000 |
| | 停電率 | % | 97% | 99% | 92% | 100% | 100% | 99% | 100% | 100% | 88% | 93% | 99% | 74% | 98% | 97% | 100% | 100% | 100% | 97% |
| | 通信（固定電話不通回線数） | 回線 | 110,000 | 29,000 | 12,000 | 9,000 | 19,000 | 6,800 | 5,900 | 22,000 | 5,300 | 6,000 | 8,200 | 1,300 | 4,800 | 9,100 | 4,200 | 6,000 | 1,500 | 260,000 |
| | 不通回線率 | % | 97% | 99% | 92% | 100% | 100% | 99% | 100% | 100% | 88% | 93% | 99% | 74% | 98% | 97% | 100% | 100% | 100% | 98% |
| | 携帯通信停波基地局率 | % | 98% | 99% | 92% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 88% | 94% | 100% | 76% | 99% | 97% | 100% | 100% | 100% | 98% |
| 生活への影響 | 避難所避難者数（当日・1日後） | 人 | 73,000 | 15,000 | 17,000 | 1,900 | 17,000 | 10,000 | 7,700 | 14,000 | 3,300 | 4,400 | 1,600 | 520 | 2,800 | 490 | 450 | 6,100 | 1,300 | 177,000 |

・端数処理により合計が合わない場合がある。

・想定シーン（季節・時間帯）は、人的被害が最大となる冬・朝5時とする。
（ただし、建物被害⑤地震火災のみ、その被害が最大となる冬・夕方18時とする。）

（注）＊：わずかにある　－：推計していない

※ブロック塀等被害：ブロック塀・自動販売機等の転倒、屋外落下物による被害

・p：ポイント（%の比較はポイント表示）

# 【参考】市町別物的被害・人的被害等想定（総括表）

## ○ 南海トラフ（発生頻度の高いもの（L1））

| 被害想定項目 | | 推計 | 高松市 | 丸亀市 | 坂出市 | 善通寺市 | 観音寺市 | さぬき市 | 東かがわ市 | 三豊市 | 土庄町 | 小豆島町 | 三木町 | 直島町 | 宇多津町 | 綾川町 | 琴平町 | 多度津町 | まんのう町 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建物被害（全壊・焼失） | ①揺れ | 棟数 | 100 | 0 | 0 | 0 | * | 120 | 460 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 710 |
| | ②液状化 | 棟数 | 1,100 | 90 | 210 | 10 | 120 | 230 | 180 | 140 | 70 | 90 | 110 | 30 | 30 | * | * | 30 | 10 | 2,400 |
| | ③津波 | 棟数 | * | * | * | － | * | 20 | * | * | * | 10 | － | * | * | － | － | * | － | 50 |
| | ④急傾斜地崩壊 | 棟数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ⑤地震火災 | 棟数 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 60 |
| 建物被害（全壊・焼失） 合計 | | 棟数 | 1,200 | 90 | 210 | 10 | 120 | 370 | 660 | 140 | 70 | 100 | 140 | 30 | 30 | * | * | 30 | 10 | 3,200 |
| 人的被害（死者数） | ①建物倒壊 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 30 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | * | * | 0 | 0 | 0 | * | * | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * |
| | ②津波 | 人 | 20 | 0 | 0 | － | 0 | 40 | * | 0 | * | 10 | － | * | 0 | － | － | 0 | － | 90 |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ④火災 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| | ⑥災害関連死 | 人 | 40～80 | * | 10～20 | 0 | * | 10～20 | 10～20 | * | * | * | * | 0 | * | 0 | 0 | * | 0 | 100～200 |
| 人的被害（死者） 合計 | | 人 | 最大100 | * | 最大20 | * | * | 最大60 | 最大50 | * | * | 10 | * | * | * | * | * | * | * | 最大330 |
| 人的被害（負傷者数） | ①建物倒壊 | 人 | 620 | 40 | 30 | * | 70 | 250 | 490 | 20 | 10 | 20 | 90 | * | * | 10 | * | 20 | 10 | 1,700 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | 130 | 30 | 10 | * | 20 | 30 | 30 | 10 | * | * | 20 | * | * | * | * | * | * | 310 |
| | ②津波 | 人 | 30 | * | 40 | － | 0 | 60 | * | * | 20 | 30 | － | 0 | 0 | － | － | 0 | － | 180 |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ④火災 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| 人的被害（負傷者） 合計 | | 人 | 650 | 40 | 70 | * | 70 | 310 | 490 | 20 | 30 | 50 | 90 | * | * | 10 | * | 20 | 10 | 1,900 |
| ライフライン被害〔発災直後〕 | 上水道（断水人口） | 人 | 175,000 | 6,900 | 10,000 | 670 | 12,000 | 26,000 | 21,000 | 4,400 | 1,800 | 3,900 | 16,000 | 880 | 950 | 1,700 | 190 | 3,500 | 1,500 | 287,000 |
| | 上水道断水率 | % | 42% | 6% | 20% | 2% | 21% | 55% | 74% | 7% | 14% | 28% | 61% | 28% | 5% | 8% | 2% | 16% | 9% | 30% |
| | 下水道（支障人口） | 人 | 12,000 | 1,800 | 2,000 | 510 | 420 | 3,600 | 1,100 | － | － | － | 930 | 60 | 430 | 340 | 120 | 370 | 80 | 24,000 |
| | 下水道支障率 | % | 4% | 4% | 14% | 3% | 4% | 15% | 25% | － | － | － | 12% | 2% | 3% | 4% | 3% | 3% | 3% | 5% |
| | 電力（停電戸数） | 戸 | 47,000 | 170 | 1,200 | * | 1,600 | 19,000 | 16,000 | 120 | 670 | 750 | 12,000 | 30 | 40 | * | * | * | * | 98,000 |
| | 停電率 | % | 19% | 0% | 4% | 0% | 5% | 68% | 90% | 0% | 5% | 5% | 80% | 1% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 17% |
| | 通信（固定電話不通回線数） | 回線 | 21,000 | 80 | 550 | * | 860 | 4,700 | 5,300 | 80 | 280 | 300 | 6,600 | 20 | 20 | * | * | * | * | 40,000 |
| | 不通回線率 | % | 19% | 0% | 4% | 0% | 5% | 68% | 90% | 0% | 5% | 5% | 80% | 1% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 15% |
| | 携帯通信停波基地局率 | % | 19% | 0% | 4% | 0% | 5% | 68% | 90% | 0% | 5% | 5% | 80% | 1% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 15% |
| 生活への影響 | 避難所避難者数（当日・1日後） | 人 | 6,000 | 400 | 2,300 | 40 | 370 | 1,700 | 1,500 | 300 | 420 | 560 | 390 | 40 | 120 | 30 | * | 90 | 30 | 14,000 |

・端数処理により合計が合わない場合がある。

・想定シーン（季節・時間帯）は、人的被害が最大となる冬・朝5時とする。
（ただし、建物被害⑤地震火災のみ、その被害が最大となる冬・夕方18時とする。）

（注）＊：わずかにある　—：推計していない

※ブロック塀等被害：ブロック塀・自動販売機等の転倒、屋外落下物による被害

・p：ポイント（%の比較はポイント表示）

# 【参考】市町別物的被害・人的被害等想定（総括表）

## ○ 中央構造線断層帯

| 被害想定項目 | | 推計 | 高松市 | 丸亀市 | 坂出市 | 善通寺市 | 観音寺市 | さぬき市 | 東かがわ市 | 三豊市 | 土庄町 | 小豆島町 | 三木町 | 直島町 | 宇多津町 | 綾川町 | 琴平町 | 多度津町 | まんのう町 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建物被害（全壊・焼失） | ①揺れ | 棟数 | 3,700 | 1,900 | 400 | 1,100 | 4,100 | 2,500 | 1,400 | 3,300 | * | * | 1,800 | 0 | 90 | 700 | 430 | 200 | 2,200 | 24,000 |
| | ②液状化 | 棟数 | 990 | 200 | 290 | 40 | 210 | 230 | 170 | 250 | 40 | 70 | 110 | 10 | 70 | 10 | * | 40 | 40 | 2,800 |
| | ③津波 | 棟数 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| | ④急傾斜地崩壊 | 棟数 | 10 | * | 0 | * | * | * | * | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | * | 40 |
| | ⑤地震火災 | 棟数 | 220 | 90 | 0 | 40 | 170 | 50 | 50 | 120 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 20 | 30 | 10 | 820 |
| 建物被害（全壊・焼失） 合計 | | 棟数 | 4,900 | 2,200 | 690 | 1,200 | 4,500 | 2,800 | 1,600 | 3,700 | 40 | 70 | 1,900 | 10 | 160 | 710 | 450 | 270 | 2,300 | 28,000 |
| 人的被害（死者数） | ①建物倒壊 | 人 | 210 | 110 | 20 | 70 | 260 | 160 | 90 | 210 | 0 | 0 | 110 | 0 | * | 40 | 30 | 10 | 140 | 1,500 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | 20 | * | * | * | 10 | * | * | 10 | 0 | 0 | * | 0 | * | * | * | * | * | 90 |
| | ②津波 | 人 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | * |
| | ④火災 | 人 | * | * | 0 | * | * | * | * | * | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| | ⑥災害関連死 | 人 | 200～400 | 60～120 | 20～40 | 30～60 | 70～140 | 40～80 | 20～40 | 50～100 | * | * | 30～60 | * | * | 20～40 | * | * | 20～40 | 600～1,200 |
| 人的被害（死者）合計 | | 人 | 最大610 | 最大230 | 最大60 | 最大130 | 最大400 | 最大240 | 最大130 | 最大310 | * | * | 最大170 | * | * | 最大80 | 30 | 10 | 最大180 | 最大2,700 |
| 人的被害（負傷者数） | ①建物倒壊 | 人 | 3,500 | 1,500 | 490 | 740 | 1,900 | 1,200 | 860 | 1,900 | 20 | 40 | 790 | * | 100 | 490 | 250 | 240 | 800 | 15,000 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | 400 | 160 | 40 | 70 | 210 | 130 | 70 | 170 | * | * | 100 | * | 10 | 50 | 20 | 20 | 100 | 1,600 |
| | ②津波 | 人 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | * |
| | ④火災 | 人 | * | * | 0 | * | * | * | * | * | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| 人的被害（負傷者）合計 | | 人 | 3,500 | 1,500 | 490 | 740 | 1,900 | 1,200 | 860 | 1,900 | 20 | 40 | 790 | * | 100 | 490 | 250 | 240 | 800 | 15,000 |
| ライフライン被害［発災直後］ | 上水道（断水人口） | 人 | 311,000 | 88,000 | 39,000 | 26,000 | 52,000 | 39,000 | 24,000 | 52,000 | 2,300 | 4,800 | 25,000 | 540 | 14,000 | 18,000 | 7,300 | 15,000 | 16,000 | 732,000 |
| | 上水道断水率 | % | 74% | 79% | 76% | 83% | 90% | 82% | 85% | 84% | 18% | 34% | 91% | 17% | 83% | 79% | 86% | 66% | 89% | 77% |
| | 下水道（支障人口） | 人 | 19,000 | 5,400 | 880 | 2,400 | 1,900 | 5,600 | 1,300 | – | – | – | 2,200 | 50 | 1,100 | 1,500 | 530 | 820 | 410 | 43,000 |
| | 下水道支障率 | % | 7% | 11% | 6% | 13% | 17% | 23% | 28% | – | – | – | 28% | 2% | 7% | 17% | 14% | 6% | 16% | 10% |
| | 電力（停電戸数） | 戸 | 234,000 | 59,000 | 25,000 | 18,000 | 34,000 | 26,000 | 17,000 | 34,000 | 1,200 | 4,400 | 15,000 | 10 | 11,000 | 13,000 | 5,200 | 12,000 | 9,600 | 519,000 |
| | 停電率 | % | 93% | 97% | 85% | 100% | 100% | 96% | 99% | 96% | 9% | 27% | 100% | 0% | 96% | 99% | 100% | 99% | 100% | 90% |
| | 通信（固定電話不通回線数） | 回線 | 104,000 | 29,000 | 11,000 | 9,000 | 18,000 | 6,600 | 5,800 | 22,000 | 520 | 1,800 | 8,200 | * | 4,700 | 9,300 | 3,600 | 5,900 | 1,500 | 241,000 |
| | 不通回線率 | % | 92% | 97% | 85% | 100% | 99% | 95% | 98% | 96% | 9% | 27% | 99% | 0% | 96% | 99% | 86% | 98% | 99% | 90% |
| | 携帯通信停波基地局率 | % | 93% | 97% | 86% | 100% | 100% | 95% | 99% | 96% | 9% | 27% | 99% | 0% | 97% | 99% | 86% | 98% | 99% | 90% |
| 生活への影響 | 避難所避難者数（当日・1日後） | 人 | 15,000 | 5,100 | 1,800 | 2,300 | 6,500 | 4,300 | 2,500 | 5,000 | 70 | 130 | 3,000 | 20 | 680 | 1,200 | 700 | 630 | 2,600 | 51,000 |

・端数処理により合計が合わない場合がある。
・想定シーン（季節・時間帯）は、人的被害が最大となる冬・朝5時とする。
（ただし、建物被害⑤地震火災のみ、その被害が最大となる冬・夕方18時とする。）

（注）＊：わずかにある　—：推計していない
※ブロック塀等被害：ブロック塀・自動販売機等の転倒、屋外落下物による被害
・p：ポイント（%の比較はポイント表示）

# 【参考】市町別物的被害・人的被害等想定（総括表）

## ○ 長尾断層帯

| 被害想定項目 | | 推計 | 高松市 | 丸亀市 | 坂出市 | 善通寺市 | 観音寺市 | さぬき市 | 東かがわ市 | 三豊市 | 土庄町 | 小豆島町 | 三木町 | 直島町 | 宇多津町 | 綾川町 | 琴平町 | 多度津町 | まんのう町 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建物被害（全壊・焼失） | ①揺れ | 棟数 | 1,200 | 30 | * | 0 | 0 | 950 | 50 | 0 | 0 | 0 | 880 | 0 | 0 | 120 | * | 0 | 100 | 3,400 |
| | ②液状化 | 棟数 | 650 | 60 | 80 | * | * | 220 | 100 | 10 | * | 10 | 110 | * | 10 | * | * | * | 20 | 1,300 |
| | ③津波 | 棟数 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| | ④急傾斜地崩壊 | 棟数 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | * | 0 | 0 | * | 20 |
| | ⑤地震火災 | 棟数 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 130 |
| 建物被害（全壊・焼失） 合計 | | 棟数 | 2,000 | 90 | 80 | * | * | 1,200 | 150 | 10 | * | 10 | 1,000 | * | 10 | 120 | * | * | 120 | 4,900 |
| 人的被害（死者数） | ①建物倒壊 | 人 | 70 | * | 0 | 0 | 0 | 60 | * | 0 | 0 | 0 | 60 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | * | 200 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | * | * | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | * |
| | ②津波 | 人 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * |
| | ④火災 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| | ⑥災害関連死 | 人 | 80～160 | * | * | * | * | 20～40 | * | * | * | * | 20～40 | * | * | * | * | * | * | 150～300 |
| 人的被害（死者） 合計 | | 人 | 最大230 | * | * | * | * | 最大100 | * | * | * | * | 最大100 | * | * | * | * | * | * | 最大500 |
| 人的被害（負傷者数） | ①建物倒壊 | 人 | 1,500 | 150 | 40 | 20 | * | 740 | 110 | 10 | 0 | * | 540 | 0 | * | 160 | 20 | * | 150 | 3,500 |
| | うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 | 人 | 250 | 40 | 10 | * | * | 60 | 10 | * | * | * | 60 | * | * | 20 | * | * | 10 | 500 |
| | ②津波 | 人 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| | ③急傾斜地崩壊 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * | * |
| | ④火災 | 人 | * | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | * |
| | ⑤ブロック塀等被害※ | 人 | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * | * |
| 人的被害（負傷者） 合計 | | 人 | 1,500 | 150 | 40 | 20 | * | 740 | 110 | 10 | * | * | 540 | * | * | 160 | 20 | * | 150 | 3,500 |
| ライフライン被害（発災直後） | 上水道（断水人口） | 人 | 211,000 | 27,000 | 9,000 | 1,900 | 50 | 34,000 | 12,000 | 1,200 | 50 | 250 | 23,000 | * | 2,500 | 13,000 | 3,000 | 310 | 8,100 | 346,000 |
| | 上水道断水率 | % | 50% | 24% | 18% | 6% | 0% | 72% | 42% | 2% | 0% | 2% | 85% | 0% | 14% | 56% | 36% | 1% | 46% | 36% |
| | 下水道（支障人口） | 人 | 13,000 | 2,100 | 380 | 530 | 290 | 3,900 | 460 | － | － | － | 1,500 | 40 | 420 | 750 | 160 | 340 | 150 | 24,000 |
| | 下水道支障率 | % | 5% | 4% | 3% | 3% | 3% | 16% | 10% | － | － | － | 20% | 1% | 3% | 8% | 4% | 3% | 6% | 5% |
| | 電力（停電戸数） | 戸 | 161,000 | 15,000 | 760 | 210 | * | 23,000 | 7,200 | 30 | * | 10 | 15,000 | * | * | 12,000 | 2,400 | * | 6,400 | 243,000 |
| | 停電率 | % | 64% | 25% | 3% | 1% | 0% | 86% | 41% | 0% | 0% | 0% | 99% | 0% | 0% | 92% | 46% | 0% | 67% | 42% |
| | 通信（固定電話不通回線数） | 回線 | 71,000 | 7,400 | 350 | 100 | * | 5,900 | 2,400 | 20 | * | * | 8,100 | * | * | 8,600 | 1,900 | * | 950 | 107,000 |
| | 不通回線率 | % | 63% | 25% | 3% | 1% | 0% | 86% | 41% | 0% | 0% | 0% | 99% | 0% | 0% | 92% | 46% | 0% | 66% | 40% |
| | 携帯通信停波基地局率 | % | 64% | 25% | 3% | 1% | 0% | 86% | 41% | 0% | 0% | 0% | 99% | 0% | 0% | 92% | 46% | 0% | 66% | 40% |
| 生活への影響 | 避難所避難者数（当日・1日後） | 人 | 6,700 | 470 | 240 | 50 | * | 2,300 | 370 | 40 | * | 20 | 1,900 | * | 60 | 350 | 50 | 10 | 320 | 13,000 |

・端数処理により合計が合わない場合がある。

・想定シーン（季節・時間帯）は、人的被害が最大となる冬・朝5時とする。
（ただし、建物被害⑤地震火災のみ、その被害が最大となる冬・夕方18時とする。）

（注）＊：わずかにある　　―：推計していない

※ブロック塀等被害：ブロック塀・自動販売機等の転倒、屋外落下物による被害

・p：ポイント（%の比較はポイント表示）